



その技術を、地球に還したい。

# AICA

## 社会環境報告書 2009

**アイカ工業株式会社**

# 環境経営で持続発展を目指す。

アイカグループは、70年間に蓄積された「化学技術」を活かし、  
環境負荷の低減と企業発展の両立を目指す環境経営に積極的に取り組んでいます。



ジョリパットNEWシルキーパレットしっくい調 (JQ-20T1001) 店舗写真：第2回アイカショップデザインコンテスト最優秀賞 JIN's GLOBAL STANDARD 新砂店(實神尚史/日吉坂事務所)



## 化成品 Chemical Products

最先端の樹脂系商品から接着剤系商品まで、化成品の  
パイオニアとして、またアイカの事業多角化の母体とし  
て多くの技術を蓄積しています。

■化学合成技術

### CONTENTS

目次、編集方針	1、2
アイカ商品の概要	1、2
会社概要	3、4
ご挨拶	5
アイカグループの環境経営	6
2008年度トピックス	7、8
Q・E・Oマネジメントシステム	9、10
コーポレートガバナンス	11、12
経営リスク管理	13
<b>&lt;社会性報告&gt;</b>	
従業員との関わり	14、15、16
サプライチェーン上の関わり	16、17、18
株主との関わり	19
社会との関わり	20、21、22

### <環境報告>

環境目標と進捗状況	23、24
2008年度マテリアルバランス	25
環境会計	26
地球温暖化防止	27、28
環境負荷の低減	29、30
環境リスク管理	31
環境配慮型商品	32、33、34
関係会社の取り組み	35、36
第三者意見	37
Q・E・O活動のあゆみ	38

※各事業所別環境データは、当社ホームページに掲載しています。

Web <http://www.aica.co.jp/environmental/index.html>



アイカメラミン化粧板(JI-571B) 店舗写真：第2回アイカショップデザインコンテスト  
入賞 宝塚ホテル ベーカリー&カフェ 三木SA店(清家久仁/TotaldesignWorksROOT)

## ■ 建装材 Laminated Sheets

メラミン化粧板を主軸に、多彩な色・柄・質感、さらに新しい機能の付加で多様化・個性化するニーズに対応。業界シェアNo.1を誇ります。

- 化学合成技術
- 化粧板加工技術
- 積層技術



## ■ 住器建装材 Housing Fixtures and Materials

自然と化学が調和した幅広い商品展開で、新しい都市空間を提案。住宅から商業空間まで、付加価値の高い建築部材の開発に取り組んでいます。

- 化学合成技術
- 化粧板加工技術
- 木材加工技術



## ■ 電子製品 Electronics

長年培ってきた積層技術と合成樹脂生産技術を生かして、高精度のプリント配線板を製造。高度情報化社会の発展に貢献しています。

- 化学合成技術
- エレクトロニクス技術
- 積層技術



### <編集方針>

※この報告書はアイカグループの環境保全活動、社会貢献活動等について、グラフや写真等を使い、わかり易くお伝えすることを念頭に作成しました。対象読者はアイカ商品を使用いただいているお客様、取引先、投資家、事業所周辺の住人、企業の環境・安全・品質担当者、行政の担当者、学生等の方々です。

なお、色調の識別に支障がある方に配慮した配色を行っています。

※環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」、「環境報告書の記載事項等の手引き」、「環境報告書作成基準案」等を参考に編集しました。

### <発行日>

2009年8月

なお、次回は2010年8月の発行予定です。

### <対象範囲>

※この報告書はアイカ工業株式会社の本社・本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場および下記国内関係会社の2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)の活動についてまとめたものです。なお、一部2009年度の活動内容も含まれています。

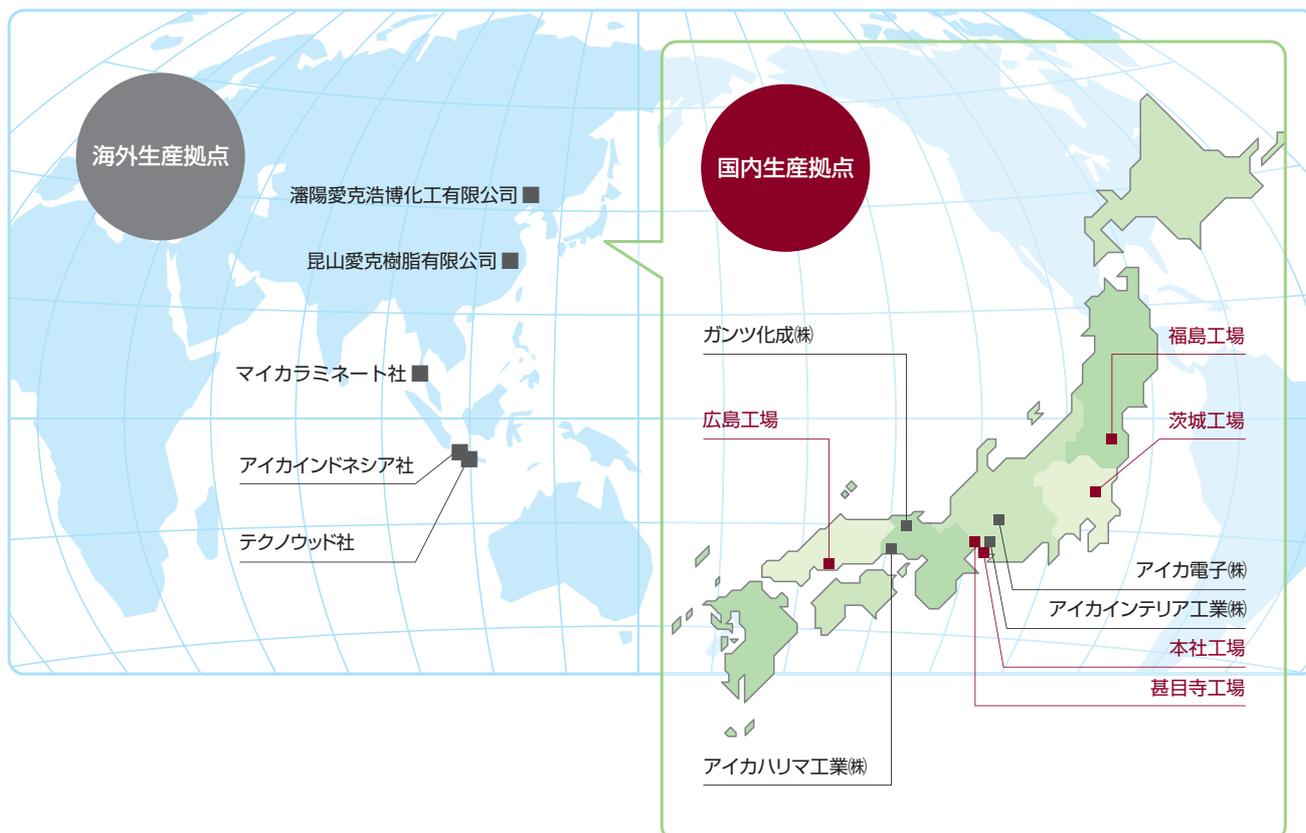
アイカインテリア工業株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカ電子株式会社、ガンツ化成株式会社、株式会社アイホー

※ただし、「トピックス」、「環境経営」、「地球温暖化防止」、「環境負荷の低減」、「Q-E-O活動のあゆみ」の項目については当社の販売部門、アイカエレテック株式会社、アイカインドネシア社、テクノウッド社、瀋陽愛克浩博化工有限公司、昆山愛克樹脂有限公司も対象に含め記載しました。(なお、西東京ケミックス㈱、五洋インテックス㈱、マイカラミネート社は対象範囲から除外してあります。)

# 会社概要

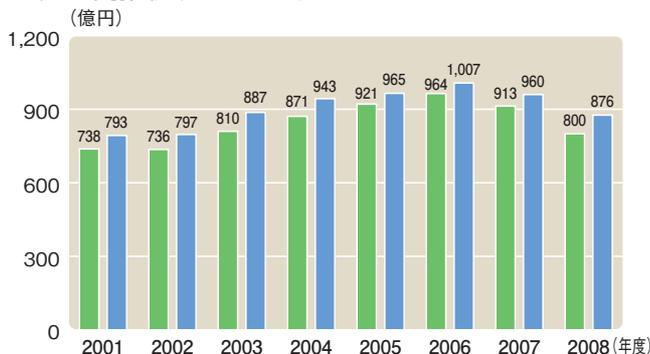
社名	アイカ工業株式会社
本社	〒452-0917 愛知県清須市西堀江2288番地 TEL (052) 409-8000 (案内)
設立	1936年(昭和11年)10月20日
代表者	代表取締役社長 渡辺修
資本金	98億9,170万円(2009年3月31日現在)
事業内容	化成品、建装材、住器建材、電子製品等の製造・販売
売上高 (2008年度)	799億59百万円(単独)、876億9百万円(連結)
事業所 (2009年3月31日現在)	国内生産拠点：5ヶ所、 開発拠点：2ヶ所、 営業拠点：国内23ヶ所、海外2ヶ所
従業員数	998名(単独) 1,751名(連結)(2009年3月31日現在の正社員数)
国内の主な関係会社	アイカインテリア工業株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカ電子株式会社、 ガンツ化成株式会社、アイカエレテック株式会社、株式会社アイホー、 西東京ケミックス株式会社、五洋インテックス株式会社
海外の関係会社	アイカインドネシア社、テクノウッド社、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司、 マイカラミネート社、愛克樹脂貿易(上海)有限公司

## ● アイカグループの生産拠点

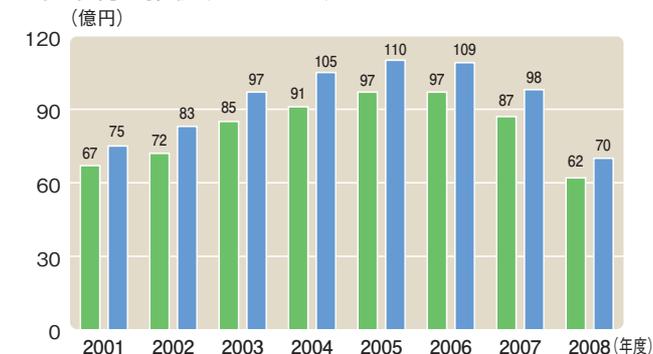


連結対象範囲：アイカ工業(株)、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、アイカインドネシア社、テクノウッド社、西東京ケミックス(株)、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司、愛克樹脂貿易(上海)有限公司(持分法適用範囲：五洋インテックス(株))

● 売上高推移(単独・連結)



● 経常利益推移(単独・連結)



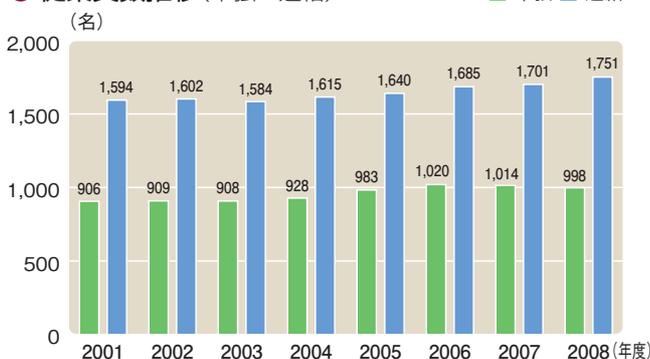
● 純利益推移(単独・連結)



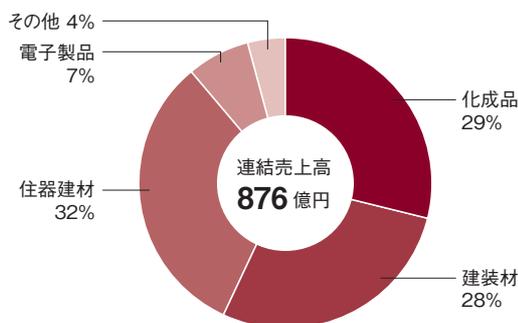
● 総資産推移(単独・連結)



● 従業員数推移(単独・連結)



● 2008年度製品別売上高占有率(連結)



● 事業概要

	品目	事業拠点
化粧品	外装・内装仕上塗材、塗床材、各種接着剤など	甚目寺工場、福島工場、広島工場、ガンツ化成(株)、アイカインドネシア社、昆山愛克樹脂有限公司、瀋陽愛克浩博化工有限公司
建築材	メラミン化粧板、化粧合板など	本社工場、アイカハリマ工業(株)、アイカインドネシア社、テクノウッド社、マイカラミネート社
住器建材	玄関・室内用ドア、インテリア建材、カウンター、不燃化粧材、収納扉など	本社工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカインドネシア社
電子製品	プリント配線板、電子材料など	福島工場、アイカ電子(株)、アイカエレクトック(株)
その他	有機微粒子、保存剤など	ガンツ化成(株)、西東京ケミックス(株)、五洋インテックス(株)

## ご挨拶

企業の社会的責任を重視し  
「環境経営」を推し進めることで、  
社会から信頼される企業を目指します。

代表取締役社長

渡辺 修



### 「化学技術」を活かした アイカグループの強み

アイカグループは1936年の設立以来コア技術としてきた化学技術を活かし、4つの事業(化成品、建築材、住器建材、電子製品)を展開し、素材・デザイン・技術を創造するメーカーとして確かな成長を続けてまいりました。特に当社の強みは4つの事業間で主要樹脂や化粧材を供給し合う「素材連携モデル」、各事業が高いシナジーを発揮する「製品開発力」、建築業界から高い人気を博す「優れたデザイン力」を有していることと自負しております。→P1、P18

### 品質・環境・労働安全衛生による 三位一体活動

これら事業の営みは、環境に配慮したモノづくりで社会に貢献する「環境経営」を核にして品質・環境・労働安全衛生の活動を三位一体で推進することでマネジメントしています。このマネジメントシステムを当社固有の特長として、コンプライアンス(法令遵守)、CSR(企業の社会的責任)を重視した環境経営を継続することで社会から信頼される企業を目指していきます。→P6、P9

### アイカグループ一丸となって 環境経営にまい進

2008年度、国内のアイカグループとして以下の結果を得ました。

- ①環境保全における最重要課題の一つである温室効果ガスの排出削減では、2007年度に比べて12.0%減少しました。→P27
- ②もうひとつの環境保全の重要課題である産業廃棄物の排出削減に関しては、工程内不良の削減に継続的に取り組み、2007年度に比べて18.5%減少しました。→P29
- ③環境配慮型商品の販売では、厚生労働省指定のVOC13物質を使用しない商品の拡販等を進めた結果、売上占有率が89.8%となり、2007年度に比べて1.4%上昇しました。→P32
- ④その他、各事業所でエコ事業所認定等を進め、環境保全活動をより一層活発化させました。→P7

2009年度も温室効果ガスの排出削減や産業廃棄物の排出削減を目標に取り組み(→P24)、グループ一丸となって事業コンセプトである「環境と健康にやさしい商品の提供」を推し進め環境経営にまい進してゆきます。

最後に、本報告書を通じてアイカグループの環境経営に対する取り組みをご理解いただき、ご意見、ご指摘をお寄せいただければ幸いです。

2009年8月

●●● 環境経営

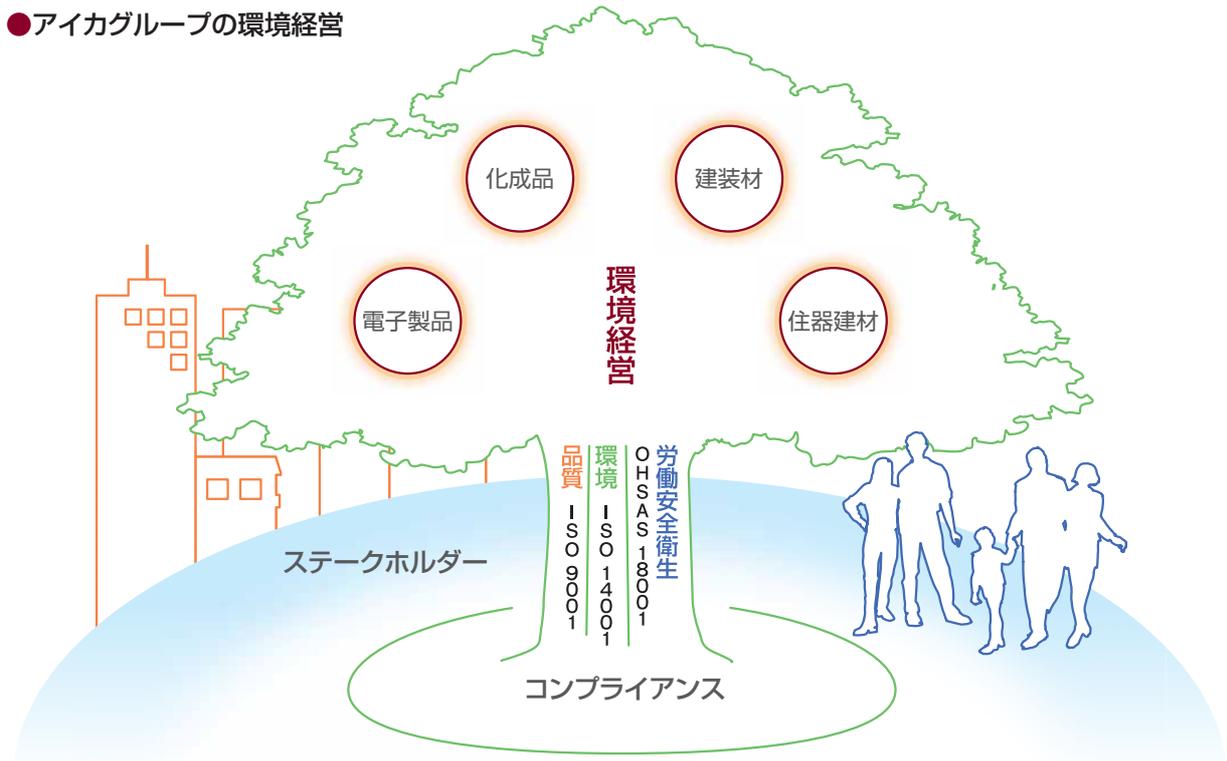
# アイカグループの環境経営

アイカグループにとって環境経営は経営の根幹を成すものとなっています。

まず、1998年に環境理念を制定しました。この理念のもと、環境ISO14001を認証取得し、環境負荷の低減と企業発展の両立を目指す環境経営に積極的に取り組んでいます。

アイカグループの環境経営とは、生産・管理・研究開発・販売の各部門において、品質・環境・労働安全衛生のマネジメントシステムを三位一体で展開することにより、各部門が総合的なバランスのとれた経営システムとしてスパイラルアップを目指すものです。

●アイカグループの環境経営



環境経営

●アイカグループQEO目標

**Q Quality 品質理念**  
 私たちはお客様に満足していただける品質を提供します

**品質マネジメントシステム**  
**顧客満足度の向上**  
 ●品質不良の低減 ●商品開発力の強化  
 ●生産性の向上 ●納期改善 ●コスト改善

**E Environment 環境理念**  
 私たちは環境の保全と地域との調和を図り環境に優しい商品を提供します

**環境マネジメントシステム**  
**環境経営度の向上**  
 ●環境経営度の向上 ●温室効果ガス排出量削減 ●省エネルギー  
 ●廃棄物発生・排出量の削減 ●環境配慮型商品の拡販 ●グリーン購入率の向上  
 ●モーダルシフト ●化学物質排出・移動量削減

**O OHS 労働安全衛生理念**  
 私たちは労働安全衛生活動を推進し健康で安全な快適職場を実現します

**労働安全衛生マネジメントシステム**  
**快適職場の実現**  
 ●労働災害の撲滅 ●車両事故の撲滅 ●職場危険源の改善  
 ●危険予知訓練の実施 ●作業環境の改善 ●メンタルヘルスケア

アイカグループQEO目標

用語解説 OHS : Occupational Health and Safetyの略。労働安全衛生のこと

# 2008年度トピックス

## 営業店所、関連会社で 各自治体のエコ事業所認定

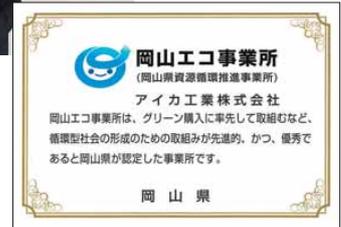
アイカグループではISO14001の認証取得により、グループ全体で環境活動に取り組んでいます。各サイトでの独自の活動を推進するために自治体が制定している“エコ事業所認定”の取得に取り組み下表の認定を受けました。

関連会社のアイカ電子株式会社では、岐阜県が“地域及び地球規模での環境の保全”を目標に全国でさがかけて2004年に制定した「環境創出協定」を、2009年2月岐阜県及び恵那市と締結しました。

今後も認定制定のなかったサイトを含めて、地域との調和を図る環境活動を推進します。



● アイカ電子  
「環境創出協定」  
締結式



● エコ事業所認定プレート  
(岡山営業所)

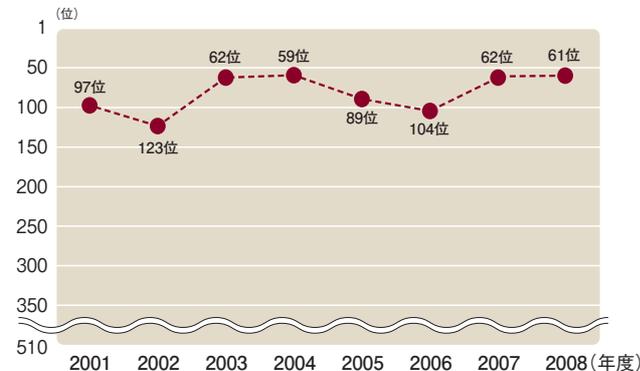
サイト名	認定(締結)自治体	名称	時期
アイカ電子(株)	岐阜県及び恵那市	環境創出協定	2009年 2月
札幌支店	札幌市	さっぽろエコメンバー	2008年11月
福岡支店	福岡県	福岡県エコ事業所	2008年 8月
岡山営業所	岡山県	岡山エコ事業所	2008年 8月
名古屋支店	名古屋市	エコ事業所	2008年 1月

## 第12回「企業の環境経営度調査」で 61位にランク

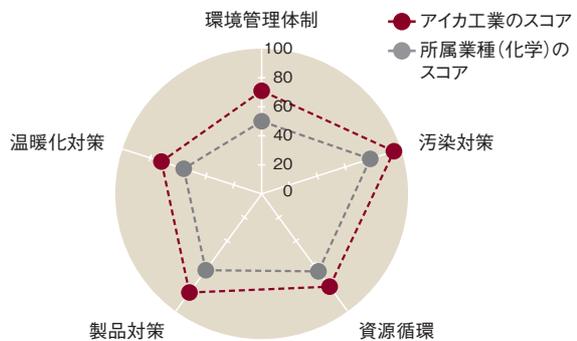
日本経済新聞社主催の第12回「企業の環境経営度調査」で、製造業510社(標本数は1,796社)中61位にランキングされました。当社の所属業種である化学部門では77社中3位のランクになっています。この評価は我々の環境保全活動がどのレベルにあるかを知る主要な指標の1つであります。

これまでの「温暖化対策」は国内活動に対しての調査でありましたが、第12回調査では国内外を問わず総合的な評価に変更されています。今後はグローバルな視点から「温暖化対策」に取り組み、さらに強固な環境経営をめざします。

### ● 環境経営度年度別ランキング



### ● アイカ工業のスコアと所属業種(化学)との比較





●名古屋支店 周辺清掃活動

●名古屋支店外観正面写真

## 人と環境にやさしいビル 名古屋支店竣工

「人と環境にやさしく、地域における広告塔となるような」オフィスビルとして「アイカ工業株式会社名古屋支店」が名古屋市千種区末盛通2丁目（地下鉄覚王山駅から徒歩1分）に完成し、2009年3月31日竣工式を行いました。

健康と地球環境に配慮した設計と、自社製品を多用することで、そのコンセプトを実現しました。

**Web** <http://www.aica.co.jp/newsrelease/20090401.html>

また、従業員もそのコンセプトを実践すべく、定期的な周辺の清掃により地域社会への貢献活動を行っています。

## 渡辺社長 環境経営を語る

2008年10月22日、名城大学が主催する起業講座として、当社渡辺社長が「環境経営について」講演しました。

講演では当社の環境への取り組みの歴史、各生産拠点での省資源・省エネルギーへの取り組みから環境配慮型商品の開発経緯までを、事例と商品説明を含め分かりやすく説明しました。午後6時過ぎからと遅い時間の講座にもかかわらず、約330名の学生、及び一般社会人の方に当社の「環境経営について」の講演を熱心に聴講していただきました。

### 省エネルギー化

- 南向き事務室の窓面上部に庇を設けることで日射侵入を軽減し、空調エネルギーを削減
- Hf蛍光灯主体の照明計画及び事務エリアにおける初期照度補正機能付高効率照明の設置、廊下等は人感センサー点灯制御を採用し、照明エネルギーを削減
- ショールーム、会議室、事務室等の外気導入に全熱交換器を採用、空調の外気負荷を削減
- 敷地内にできる限りの緑化を施し、またアスファルトは浸透性舗装とすることで、ヒートアイランド現象を抑制し都市環境に貢献

### 健康への配慮

- シックハウス問題の原因の一つとされているホルムアルデヒドの発散等級の最高等級F☆☆☆☆のアイカ製品を建築仕上材に全面的に採用
- 喫煙コーナーの設置により、全館分煙を徹底



●名城大学起業講座 講演資料表紙



●品質環境OHSニュース／109号

# Q・E・O マネジメントシステム

**用語解説** Qは品質(Quality)、Eは環境(Environment)、Oは労働安全衛生(Occupational Health and Safty)を意味します。

## 品質、環境、労働安全衛生マネジメントシステム

1996年9月にアイカ電子(株)が品質マネジメントシステムISO9002を、1999年9月に新川工場(現本社工場)が環境マネジメントシステムISO14001を、2001年8月に本社・新川工場、甚目寺工場、福島工場が同時に労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001を取得しました。

その後、この3つのマネジメントシステムを各工場、関係会社、営業拠点へも拡大し、その結果、2004年度中に国内のアイカグループの全拠点で3つのマネジメントシステムの認証取得が完了しました。

2006年度は7月に環境マネジメントシステムと労働安全衛生マネジメントシステムの複合を含んだ定期審査を受審し、2007年1月に品質マネジメントシステムにおいて関係会社ごとに取得していた認証を統合した審査を行い、国内関係会社(アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、ガンツ化成

(株)を含んだシステムの統合を実現しました。

さらに2007年度は、環境・労働安全衛生マネジメントシステムにおいてアイカグループのシステム統合をめざし、(財)日本品質保証機構による統合審査が行われ、2007年8月認証取得しました。

これにより、国内アイカグループの品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステムが統合されることになり、アイカグループ各社が共通の目的・目標を持つことでグループの諸課題の改善に向けたQ・E・O三位一体の取り組みが開始されることとなりました。

この取り組み意識の向上のため「QE0方針カード」を国内関係会社及び構内で働く全ての人に全社員に配布しています。



● JQA 審査報告会風景

<p><b>オールアイカ 品質理念</b></p> <p>私達はお客様に満足していただける品質を提供します</p> <p>平成17年 6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p>	<p><b>オールアイカ 環境理念</b></p> <p>私たちは環境の保全と地域との調和を図り環境に優しい商品を提供します</p> <p>平成17年 6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p>	<p><b>オールアイカ 労働安全衛生理念</b></p> <p>私たちは労働安全衛生活動を推進し健康で安全な快適職場を実現します</p> <p>平成17年 6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p>
<p><b>品質方針</b></p> <p>オールアイカ品質理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>顧客の期待とニーズにこたえる商品の開発・生産・販売に努め、顧客満足度の向上を図ります</li> <li>法令・規制要求事項および顧客要求事項を遵守します</li> <li>品質マネジメントシステムが常に有効であるように、継続的改善に努めます</li> <li>品質目標及び力責を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持します</li> <li>当社で働く人、当社のために働いてくれるすべての人に周知徹底します</li> <li>この方針が必要に応じて公開します</li> <li>この方針は、常に妥当かつ適切であるように定期的に見直しします</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 品質マネジメントシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>	<p><b>環境方針</b></p> <p>オールアイカ環境理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>省資源化・省エネルギー化及びその他環境負荷の低減を図り、地球温暖化防止に努めます</li> <li>廃棄物・排出物の削減、再資源化、再使用に努めます</li> <li>環境に優しい商品の開発及び販売に努めます</li> <li>グリーン購入に努めます</li> <li>無害の水や資源に努める環境改善に努めます</li> <li>地域との調和・共生を図るよう努めます</li> <li>継続的な改善及び汚染の予防に努めます</li> <li>環境の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します</li> <li>環境目的及び目標を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持します</li> <li>当社で働く人、当社のために働いてくれるすべての人に、周知徹底します</li> <li>この方針は必要に応じて公開します</li> <li>活動結果の積極開示に努めます</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 環境マネジメントシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>	<p><b>労働安全衛生方針</b></p> <p>オールアイカ労働安全衛生理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>安全パトロール、危険源のリスク改善と危険予知訓練(KY T)により、安全衛生の向上を図ります</li> <li>設備・作業の安全化、有害物質の適正管理、作業環境の改善により、職場の快適化を図ります</li> <li>車禍事故の撲滅に努めます</li> <li>安全衛生の継続的な改善に努めます</li> <li>安全衛生の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します</li> <li>安全衛生目的を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持するとともに、完全に周知徹底します</li> <li>この方針は必要に応じて公開します</li> <li>この方針は、常に妥当かつ適切であるように定期的に見直しします</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 OHSASシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>

<p>平成21年4月1日</p> <p><b>QE0方針カード</b></p> <p>氏名</p> <p>部署</p> <p>所属</p> <p>職名</p> <p>決定</p> <p>署名</p> <p>アイカ工業株式会社 アイカインテリア工業株式会社 アイカハリマ工業株式会社 ガンツ化成株式会社 アイカエレクトリック株式会社 アイカエレクトロニクス株式会社</p> <p>平成21年4月1日</p>	<p><b>オールアイカ品質理念</b></p> <p>私達はお客様に満足していただける品質を提供します</p> <p>平成17年6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p> <p><b>品質方針</b></p> <p>オールアイカ品質理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>顧客の期待とニーズにこたえる商品の開発・生産・販売に努め、顧客満足度の向上を図ります</li> <li>法令・規制要求事項および顧客要求事項を遵守します</li> <li>品質マネジメントシステムが常に有効であるように、継続的改善に努めます</li> <li>品質目標及び力責を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持します</li> <li>当社で働く人、当社のために働いてくれるすべての人に、周知徹底します</li> <li>この方針は必要に応じて公開します</li> <li>この方針は、常に妥当かつ適切であるように定期的に見直しします</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 品質マネジメントシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>
<p><b>オールアイカ環境理念</b></p> <p>私たちは環境の保全と地域との調和を図り環境に優しい商品を提供します</p> <p>平成17年6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p> <p><b>環境方針</b></p> <p>オールアイカ環境理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>省資源化・省エネルギー化及びその他環境負荷の低減を図り、地球温暖化防止に努めます</li> <li>廃棄物・排出物の削減、再資源化、再使用に努めます</li> <li>環境に優しい商品の開発及び販売に努めます</li> <li>グリーン購入に努めます</li> <li>無害の水や資源に努める環境改善に努めます</li> <li>地域との調和・共生を図るよう努めます</li> <li>継続的な改善及び汚染の予防に努めます</li> <li>環境の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します</li> <li>環境目的及び目標を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持します</li> <li>当社で働く人、当社のために働いてくれるすべての人に、周知徹底します</li> <li>この方針は必要に応じて公開します</li> <li>活動結果の積極開示に努めます</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 環境マネジメントシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>	<p><b>オールアイカ労働安全衛生理念</b></p> <p>私たちは労働安全衛生活動を推進し健康で安全な快適職場を実現します</p> <p>平成17年6月24日 アイカ工業株式会社 社歴 誠込 終</p> <p><b>労働安全衛生方針</b></p> <p>オールアイカ労働安全衛生理念に基づき、次のように定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>安全パトロール、危険源のリスク改善と危険予知訓練(KY T)により、安全衛生の向上を図ります</li> <li>設備・作業の安全化、有害物質の適正管理、作業環境の改善により、職場の快適化を図ります</li> <li>車禍事故の撲滅に努めます</li> <li>安全衛生の継続的な改善に努めます</li> <li>安全衛生の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します</li> <li>安全衛生目的を設定し、適切に運用するとともに、必要に応じて見直しします</li> <li>この方針を実行し、維持するとともに、完全に周知徹底します</li> <li>この方針は必要に応じて公開します</li> <li>この方針は、常に妥当かつ適切であるように定期的に見直しします</li> </ol> <p>平成20年 4月 1日 OHSASシステム経営者 アイカ工業株式会社 執行役員 田中 彰</p>

● QE0方針カード(H21年度版)

## 品質、環境、労働安全衛生マネジメントシステムの取得状況

事業所、会社名		ISO9001	ISO14001	OHSAS18001
管理部門	本社、東京本社、東京京橋オフィス	○	○	○
生産部門	本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場	○	○	○
研究開発部門	R&Dセンター(甚目寺)、R&Dセンター(福島)	○	○	○
販売部門	札幌支店、仙台支店、盛岡営業所、福島出張所、東京支店、埼玉支店、横浜支店、千葉支店、宇都宮営業所、北関東支店、新潟営業所、松本営業所、名古屋支店、静岡支店、金沢支店、大阪支店、神戸支店、京滋営業所、広島支店、岡山営業所、高松支店、福岡支店、鹿児島営業所	○	○	○
国内関係会社	アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、アイカエレテック(株)、(株)アイホー	○	○	○
海外関係会社	アイカインドネシア社、テクノウッド社、昆山愛克樹脂有限公司 瀋陽愛克浩博化工有限公司	○	○	-

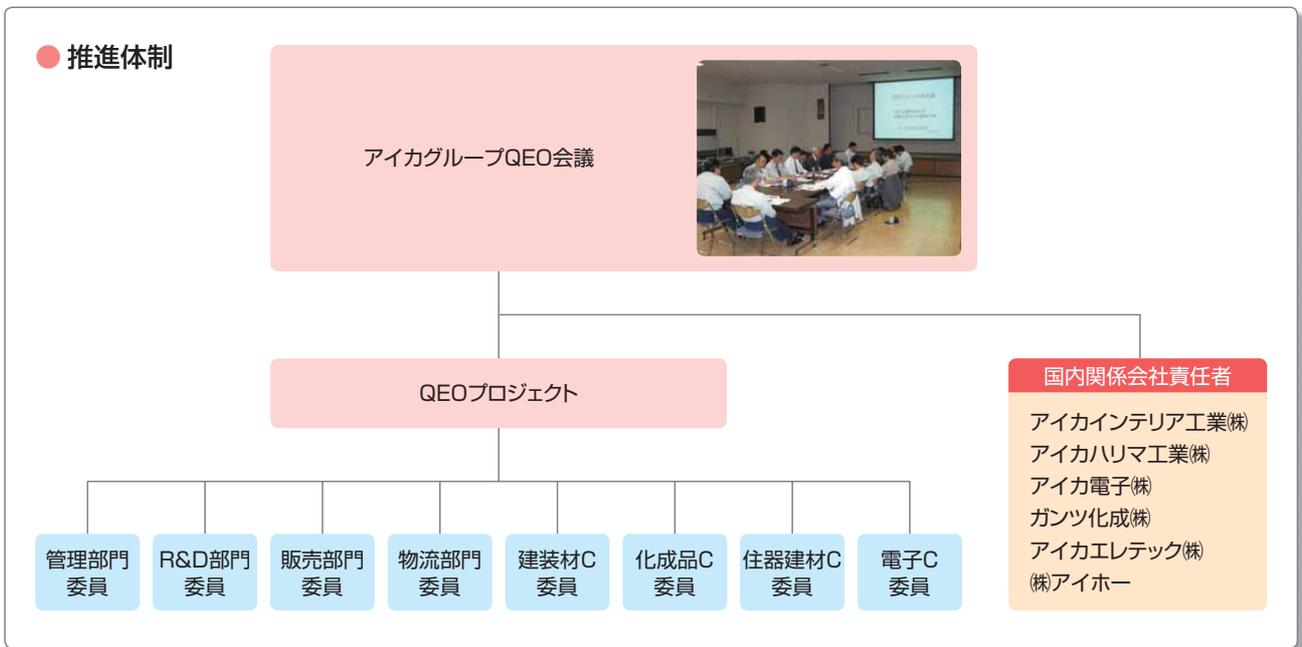
○：認証または適合証明を取得済み

## ■ アイカグループQEO推進体制

アイカグループの環境経営に関して審議し決定する重要な会議が、環境安全部担当/品質保証部長を議長とするアイカグループQEO会議です。この会議はアイカ工業の各カンパニーの生産部門代表者で構成する会議、営業拠点の責任者で構成する会議および国内関係会社6社の代表者を含んだグループQEO会議で成り、アイカグループの品質目標、環境目標、労働

安全衛生目標の決定、実施の推進、その進捗状況の確認等を行っています。

2008年度はグループQEO会議を10月に開催し2008年度上期の活動目標、方策等を確認し、下期の活動について討議しました。そして2008年度活動実績等は2009年4月にとりまとめを行いました。



## ■ 品質・環境・労働安全衛生 ISO 教育

Q・E・O マネジメントを推進する上で教育は非常に重要です。2008年度は品質ISOの規格改訂があり、関係会社を含む事業所において規格改訂の概要とアイカグループの規定変更の研修会をISO担当者、内部監査員に対して実施しました。

### ● 品質ISOの2008年版規格改訂研修会

サイト・部門	受講者数	サイト・部門	受講者数
本社工場	17名	品質保証部/環境安全部	12名
甚目寺工場	5名	施設部/物流部	4名
福島工場	6名		
広島工場	3名	アイカインテリア工業(株)	12名
住器建材カンパニー	9名	アイカハリマ工業(株)	12名
電子カンパニー	5名	アイカ電子(株)	16名
R&D	8名	ガンツ化成(株)	2名

## ■ 品質・環境・OHS ニュース

アイカグループの品質、環境保全、労働安全衛生に関する活動状況や関係法令が改正された場合、その周知を図るため「品質・環境・OHS ニュース」を発行しています。2008年度は18件発行しました。(第100号～第117号)



- 品質・環境・OHS ニュース：JIS マーク制度(第105号)、札幌エコ事業所認定(第112号)、品質マネジメントシステム 定期審査終了(第115号)

### 📖 用語解説

※ OHS：Occupational Health and Safetyの略。労働安全衛生のこと

# コーポレート・ガバナンス

## ■ コーポレート・ガバナンス体制

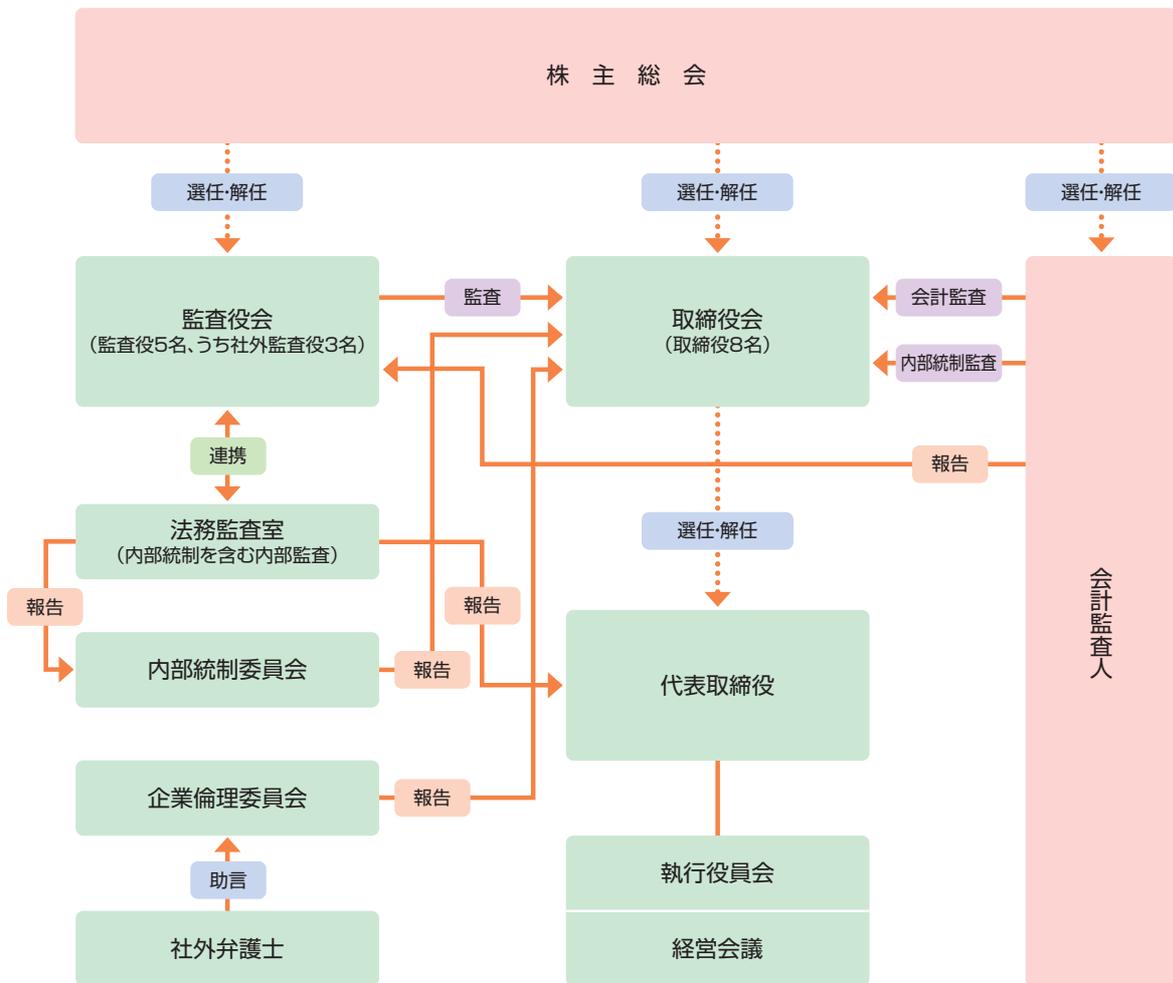
当社は、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題のひとつと認識しており、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの法律上の機能に加え、様々な内部統制の仕組みを整備するとともに、すべてのステークホルダーの方々にタイムリーな情報提供を行うことで透明性の高い経営をめざしています。

当社は、監査役制度を採用しており、社外監査役3名を含む5名の監査役が取締役の職務執行ならびに当社および国内外子会社の業務や財務状況について監査を実施しています。さらに内部監査部門である法務監査室が、遵法のみならず管理

や業務手続の妥当性まで含め、継続的な実地監査を実施しています。

当社の取締役会は、法令で定められた事項のほか、経営方針や事業計画、投資計画など経営に関わる重要事項を意思決定する機関と位置づけており、原則として毎月1回開催しています。また、執行役員会や経営会議等の会議体を設け、個別事項の審議の充実をはかるとともに、取締役会の決定した方針に基づく業務執行に対する監督、指導、助言に努めています。

### ● コーポレート・ガバナンス体制および内部統制の仕組み



## ■ 内部統制委員会

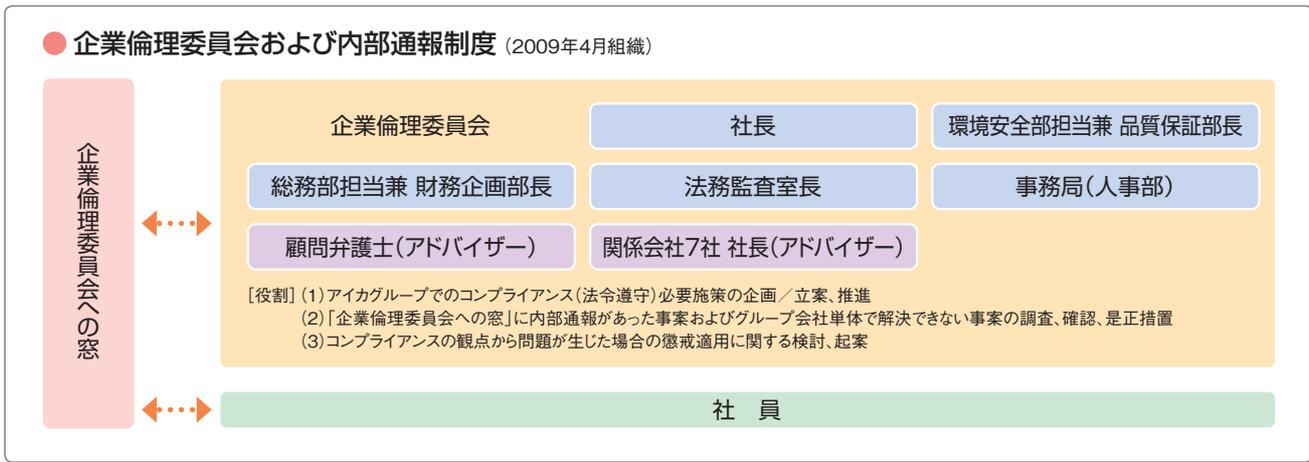
2008年4月から、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度に適切に対応するために、「内部統制委員会」を設置しています。本委員会が中心となり「全社的な内部統制」、

「決算財務報告プロセス」、「業務プロセス」の維持管理と自己点検を行うとともに、別途、法務監査室による内部監査評価とあわせて財務報告の信頼性の維持向上を図っています。

## ■ 企業倫理委員会

法令を遵守しつつ企業活動を行うことは企業が存続・発展をしていく上で基本となるものです。企業倫理委員会は、コンプライアンス徹底のため、必要施策の企画・立案、及び同施策の推進を目的として2002年11月に設置されました。

また、コンプライアンスの観点から問題が生じた場合、これを早期に発見して芽の小さいうちに摘み取るため、社員から「企業倫理委員会への窓」への電話もしくは電子メールによる通報を受け付けています。



## ■ 行動指針

法令を遵守し、全社をあげて社会的良識に従った健全な企業活動を推進するため、「アイカグループ社員の行動指針」を策定し、アイカ工業はもとより国内グループの全社員に行動指針カードを配布しました。

● アイカグループの行動指針カード

**1 会社との関係における行動指針**

- (1) 明るい職場づくり
- (2) 会社資産の取扱い
- (3) アイカへの責任・誇り

**2 企業活動における行動指針**

- (1) 事業理念の実現
- (2) 自己能力の啓発と(挑戦と創造)
- (3) オープンで公平・公正な競争と取引
- (4) チームワークの尊重
- (5) ローカルかつグローバルな行動指向
- (6) 良識を持った品格のある行動

**3 社会との調和における行動指針**

- (1) 健全かつ透明な関係の維持
- (2) 積極的な社会参加

**4 私的行為における行動指針**

- (1) 誠実・堅実・健全な家庭生活
- (2) 節度ある生活姿勢、違法・反社会的行動の厳禁

## ■ コンプライアンス

アイカメタル不燃は2004年4月から三菱化学産資株式会社〔現：三菱樹脂(株)〕よりOEM供給を受け販売しておりましたが、2008年1月25日に国土交通省から、該社が認定取得した製品で不燃認定番号“NM-0209”が国土交通省から認定未取得であるとの指摘を受け、アイカでは販売を中止しました。その後、2008年2月22日付で新たな認定番号“NM-1871”を取得することができた為、販売を再開いたしました。

お客様に大変なご迷惑をお掛けし、深くお詫び申し上げます。再発防止策として、OEM商品、自社開発商品を問わず、発売前の社内でのチェック体制を強化するとともに、発売後も定期的に確認を行っています。また、社長を委員長とする「製品リスク管理委員会」を発足し、開発部門や生産部門に対して“製品リスクに関する勉強会”を実施し、社員の啓発活動を推進しています。

## ■ 外部の評価制度 (SRI ファンド評価用アンケートの活用)

これまでの環境保全活動等についての外部機関からのアンケートへの対応に加え、(株)日本総合研究所主催で企業の社会的責任も重視した「わが国企業のCSR経営の動向調査」へも回答し、得られる評価結果を活かすことにより、当社の取り組みが不十分な項目の把握、改善に努めています。

2008年度調査の結果、2007年度に引き続き当社は「社会的責任経営の取り組みの進んだ企業」として選定され、金融機関等への情報提供が行われました。

# 経営リスク管理

## ■ 地震・防災体制



● 地震防災カード

大規模な地震が発生した場合の対策などを「地震防災規程」として平成16年7月に策定し、平成21年4月にも改訂を行っています。

この規程の内容は、①従業員や家族の安全確保、②構内作業員や来客者の安全確保、③二次災害の防止と軽減、④事業の早期復旧、⑤地域への救援活動、⑥関係会社の復旧支援、⑦取引先企業の復旧支援 であり、具体的な実施事項も明確化しています。

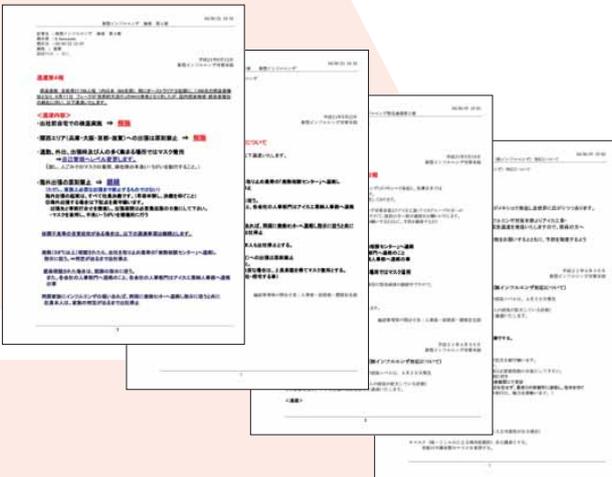
また、集中豪雨・台風等(風水害という)の自然災害に対して、発生予報の段階から風水害が発生した場合のとるべき対策を明確にした「風水害防災規程」を制定しています。地震防災規程と同様の内容を目的として、中央対策本部、中央対策本部長、同副本部長及び地区隊、地区隊長の任務を定めています。

## ■ 新型インフルエンザ対策

2009年の4月ごろからメキシコから発症が始まったとされる新型インフルエンザの流行は社会的に大きな問題となっていますが、企業活動にも大きな影響を与えるリスクであります。当社では新型インフルエンザ対策に関する行動計画を策定し、BCP、BCM\*の観点でのガイドラインを明確化しました。また感染防止行動についても従業員に発信し、衛生面での指導も行っていきます。

### 用語解説

※ BCP、BCM：事業継続計画/経営の略で、企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと、また、これらをマネジメントすること。



● 社内LAN お知らせ記事(第1報、第2報、第3報、第4報)

## ■ 情報セキュリティ

当社は、社内規定を遵守し、適正な情報管理・活用を推進するという方針のもと、情報セキュリティの強化に取り組んでいます。具体的には、情報管理委員会を中心に「情報管理規程」「個人情報管理規程」など5つの情報関連規程類を運用することにより、その遵守に努めております。

- ログイン認証を社員IDカード認証方式へ変更し、セキュリティ強化を図りました。
- 外部ネットワークのセキュリティレベルについて外部の診断を受け、問題ない評価を受けています。
- 当社システム開発主要委託先への運用管理の状況を確認するため、情報セキュリティ監査を実施しています。

## ■ 製品リスク

製品事故の再発防止を図ることを主旨として「消費生活用製品安全法」の一部を改正する法律が平成19年5月14日から施行され、製品事故に関する報告・公表制度および危害の発生、拡大を防止するための措置が整備されました。

アイカグループでは、「製品安全管理規定」を定め、消費者重視の基本に従い、事故が発生した場合の製品苦情に対し、迅速かつ適切な対応、情報の開示を原則とすることを明確にしました。また被害が発生した場合も、速やかに関係官公庁へ報告し、再発防止を行うことも定めています。これらの取組みは「製品の安全に関する自主行動指針」として、アイカホームページに掲載しています。

また、製品の設計時から安全を念頭に置いた開発を行うとともに、製品リスク管理委員会および品質保証部門が、販売前の製品を多角的にチェックしています。

このように安全・安心な商品を提供すべく、グループを挙げて取り組んでいます。

## ■ 生産分散

地震や火災等の大きな災害が発生し、生産活動が不可能になった場合、どう対応するか。このことは、事業活動を継続して行う上で大きな課題です。

アイカグループでは海外も含めた複数の生産工場で、主力製品が生産可能な体制を整えています。

参照：会社概要(P3～4)





# サプライチェーン上の関わり

労働衛生 > > > > > > > > > > > > >

## ■ 特定健康診断

国が健康保険法を改正したことで、厚生労働省は、2008年度からメタボリック・シンドロームの予防・改善を目的とする新しい健診制度を導入する計画を打ち出し、健康保険組合にメタボ対策を義務付けました。当社では、喫煙習慣の有無を含む既往歴の調査や身長、体重、BMI、肝機能検査などに、腹囲測定を加えた特定健診を実施しています。そして、メタボリック症候群やその予備軍の人に対し産業医や保健士などの面接指導等により、食事や運動の指導を実施していきます。

雇用 > > > > > > > > > > > > >

## ■ 再雇用制度

65歳までの継続的な雇用機会の提供を義務付ける改正高齢法\*が平成18年4月1日から施行されました。当社はこれに先駆け、子会社を通じて再雇用制度を実施してきました。

2006年4月に改正高齢法が施行された機会を捉え、少子・高齢化の進行を背景にした社会的要請の高まりや、厚生年金をはじめとした社会保障制度の動向、厳しさが続く雇用情勢、社員の高い勤労意欲などを総合的に検討し、60歳代前半層の方々に、意欲と能力に応じて可能な限り現役で活躍していただくことのできる再雇用制度を新たに発足させました。

この再雇用制度では、契約は1年単位で行い、本人が希望するとともに当社が働いて頂きたい場合は65才の誕生日まで継続して雇用する制度となっています。

### 用語解説

※改正高齢法：改正高齢者雇用安定法のこと。2006年4月1日から、高齢者について少なくとも年金支給開始年齢（男性の年金（定額部分）の支給開始年齢に合わせ男女同一の年齢）までの高齢者雇用確保措置の導入が各企業に義務づけられた。

## ● 再雇用制度の新規雇用者数推移

2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
20名	9名	9名	10名	13名	20名	15名

## ■ 障害者雇用

2009年4月現在、当社の障害者雇用率は1.2%（法定雇用率は1.8%）です。このため、社内に障害者の雇用拡大を目指したプロジェクトを設置し、就業可能な業務の洗い出しや就業の定着等を行っています。そして、2009年度中に法定雇用率を満足するように障害者就職面接会への参加等の施策を行っています。

## ■ 製品の安全情報の提供

改正建築基準法の施行、学校環境衛生の基準の改正、欧州の化学物質規制（RoHS指令、ELV指令、REACH）、お客様のグリーン購入の推進等により製品の化学物質に関する意識が高まっています。当社は化学物質を原材料として使用しており、特に接着剤、塗材、建築材等がこれらの規制に密接に関わっています。

2008年度は668件の情報を提供しました。2007年度と比較すると65件、11%の増加でした。これは、お客様のグリーン購入等の一層の進展により、使用禁止物質や管理物質等に関する環境負荷物質調査が265件（占有率40%）と多数を占めたことが大きな要因です。その他、REACH\*の高懸念物質として15物質が公表されたことに伴い、それら物質の含有の有無の調査結果報告の発行、化成品の輸出増加に伴う輸出貿易管理令該非判定書発行もそれぞれ61件（占有率9%）、48件（占有率7%）と増加しました。一方、アスベスト、PFOS\*\*の含有の有無の発行は減少し、一段落したと推察します。

このように化学物質に関する調査および情報提供は今後ますます重要度を増すと考えられ、迅速でより正確な情報提供に努めます。

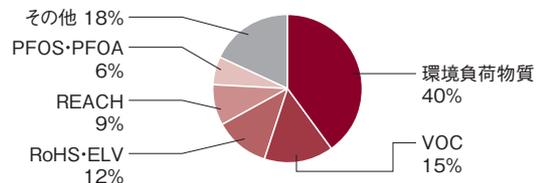
### 用語解説

※REACH：Registration（登録）、Evaluation（評価）、and Authorization（認可）、of Chemicals（化学物質）の頭文字をとったもの。2007年6月に施行された欧州における化学物質規制制度。企業に対して新規物質だけでなく、約3万種類に及ぶ既存物質についても安全性データの提出を義務づけた点が特徴。

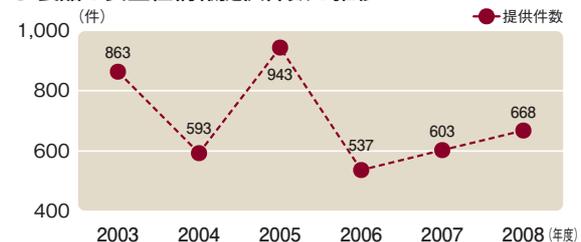
※PFOS：パーフルオロオクタンスルホン酸およびその塩のこと。非常に安定な化合物であるため、環境中では分解しにくいといわれ、野生動物や人の体内に蓄積されていることが報告されています。これを受け、EU委員会では2006年12月に同物質の販売と使用に関する制限を発表しています。

Web <http://www.aica.co.jp/policy/index.html>

### ● 製品安全情報提供の内訳



### ● 製品の安全性情報提供件数の推移



# サプライチェーン上の関わり

## メラミン化粧板の安全性

昨年報道されました中国で発生したメラミン混入粉ミルクの事件では、粉ミルクに化学物質の粉末メラミンが混入され、これを飲んだ乳児が腎臓結石に罹患した事件でした。その後、メラミン化粧板のトップメーカーである当社にもその安全性に関する問い合わせが多く寄せられたため、メラミン化粧板は安全であることを説明し、理解をしていただきました。

詳細は当社のホームページをご覧ください。

**Web** <http://www.aica.co.jp/newsrelease/20080924.html>

## お客様センターの対応

当社は主に建築関連の製品を製造販売しており、その製品アイテムも多いためお客様に対してきめ細かい対応が必要です。このため、お客様センターでは次の3つの窓口で対応しています。

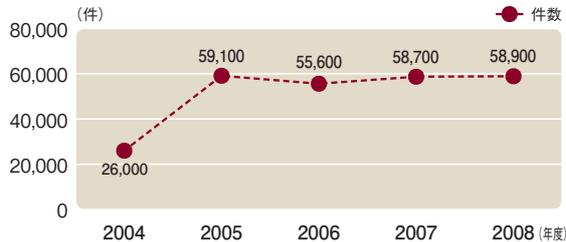
カタログやサンプルの請求、問合せ窓口の「アイカカタログセンター」、内・外装仕上塗材ジョリパットの塗板見本の請求、問合せ窓口の「アイカ塗板センター」、その他の問合せ窓口の「アイカコールセンター」です。

お客様としては、設計、工事会社、建築会社、デベロッパー、住宅会社、リフォーム会社、販売会社などの方々です。また、問合せ内容は、営業、商品、施工、環境、認定書、苦情など多岐にわたります。このため、お客様の要求や質問に、迅速・正確・丁寧にお答えできるよう幅広い知識と豊富な経験を備えたスタッフを窓口配置しています。

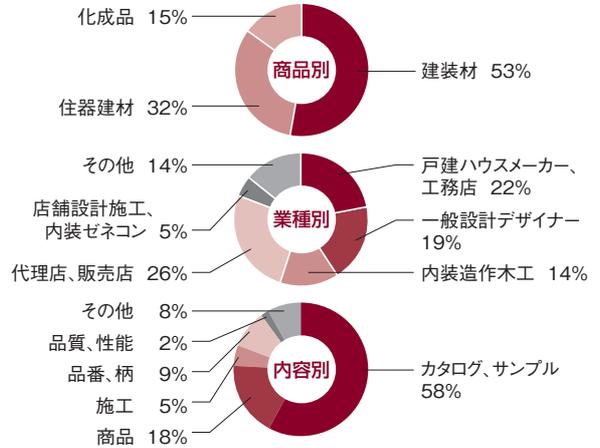
2008年度は58,900件の問合せがありました。当年度、建築業界は厳しい状況にあり、その問合せ内容もより細かくなるとともに、環境対応、不燃認定商品の問合せの増加が目立ちました。

当社は環境と健康に配慮した商品の提供を事業コンセプトとして、「持続可能なモノづくり」を合言葉にしており、ここで得られた貴重な情報を環境配慮型商品の開発、販売に活かしています。

## ● お客様センターお問合せ件数推移



## ● 2008年度お客様センターお問合せ状況



## ■ アイカ現代建築セミナー

当社は信頼される商品の提供を通じて建築文化の向上と発展に微力ながら貢献することに努めてきました。その貢献のひとつに「アイカ現代建築セミナー」の開催があります。

1983年から毎年、各地で内外の著名な建築家を講師に迎え、建築家、学生および一般の方を対象に住宅・環境・都市空間など幅広い分野にわたってレクチャーしていただく文化活動として注目されています。

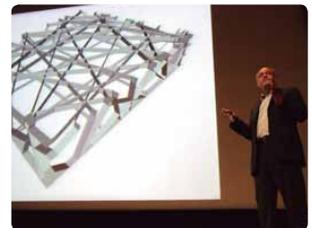
2008年度はスリランカ出身で、現在ロンドンで活躍の建築家セシル・バルモンド氏と日本の建築家伊東豊雄氏を講師に迎え「New Organisation」というテーマで「バルモンド氏講演」「伊東氏講演」「バルモンド氏と伊東氏の対談」の3部構成で行われました。バルモンド氏からは従来の四角、三角、丸といった静的な幾何学からの考えではなく、新しい動的な幾何学に基づく考えによる実際のプロジェクトの説明が、伊東氏からはバルモンド氏とのコラボレート作品等の説明がありました。

開催日	講師・演題	開催地・聴講者数
第57回 (2008年7月1、2日)	セシル・バルモンド+ 伊東豊雄 演題： 「New Organisation」	東京： 文京シビックホール 大ホール(1,751名) 大阪： NHK大阪ホール (1,540名)

## ● 第57回現代建築セミナー



● 対談風景



● バルモンド氏講演風景

## ■ アイカデザインセミナー

2004年からアイカ新商品発表会と同時開催で、国内外で活躍する建築家・デザイナーを講師としてお招きし、アイカデザインセミナーを開催しています。

なかなか、講演会が開催される機会の少ない地方都市での開催は非常に好評を得ております。

2009年度は下表の通り開催しています。

開催地	開催日	講師	所属	会場名	聴講者数(定員)
札幌	5月14日	杉本貴志	株式会社スーパーポテト 代表	札幌コンベンションセンター	178名
仙台	5月21日	橋本夕紀夫	有限会社橋本夕紀夫デザインスタジオ 代表	サンフェスタ	138名
松本	4月23日	納谷学/ 納谷新	納谷建築設計事務所	長野アークス	62名
金沢	6月11日	小坂竜	A.N.D	石川県地場産業振興センター	142名
広島	6月25日	青木淳	株式会社青木淳建築設計事務所 代表	広島産業会館	490名
高松	6月18日	神谷利徳	株式会社神谷デザイン事務所 代表	サンメッセ香川	106名
福岡	7月10日	文田昭仁	文田昭仁デザインオフィス 代表	パピヨン24	73名

- 申込制・先着順・無料(定員に達し次第、申込み締切り)
- 時間：13：30～15：00(13：00開場)

## ■ 第2回アイカショップデザインコンテスト

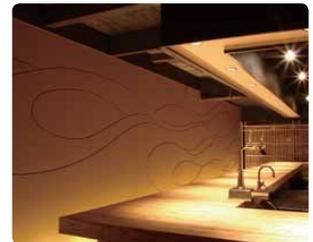
当社の商品(メラミン化粧板、ポリエステル化粧合板、ポストフォームカウンター、ジョリパット等)は意匠性、デザイン性に優れているため、店舗の設計・施工に多く使用されています。一昨年に引き続き今回も、当社商品を使用した店舗作品を募集しました。対象は2007年10月1日から2008年8月末日までの期間に完成した店舗作品です。

その結果、138点の応募があり、審査委員長に杉本貴志氏(株式会社スーパーポテト代表)、審査委員に神谷利徳氏(株式会社神谷デザイン事務所代表)、笈川誠氏(「月刊 商店建築」編集長)をお招きし、野田近(当社専務取締役(当時))とともに、最優秀賞1点、優秀賞3点、入選6点を選出しました。

Web <http://www.aica.co.jp/shopdesign/02/index.html>



● 最優秀賞 JIN's GLOBAL STANDARD 新砂店



● 優秀賞 和醸良麺 すがり



● 優秀賞 東京大学 森川研究室



● 優秀賞 Produce 成瀬店

審査結果	
最優秀賞	JIN's GLOBAL STANDARD 新砂店(寶神尚史/日吉坂事務所)
優秀賞	和醸良麺 すがり(岡本成貴/一級建築士事務所 SOUND)
	東京大学 森川研究室(清水濃/株式会社大伸社m.c.t事業部)
入賞	Produce 成瀬店(吉田昌弘/KAMITOPEN一級建築士事務所)
	宝塚ホテル ベーカーリー & カフェ 三木SA店(清家久仁/TotaldesignWorksROOT)
	阿佐谷銘茶楽山新店(勝野明美・ヤギタカシ/love the life)
	office_a(新井今日子・日比生寛史/新井建築設計・計画+日比生寛史建築計画研究所)
	MAM CAFÉ 羽田空港第1ターミナル店(玉上貴人/タカタマガミデザイン)
green/fog(落合守征・川村道人/TWOPLUS-A建築設計事務所)	
山手歯科クリニック(熊沢信生・岩橋翼/株式会社アトリエKU)	

# 株主との関わり

## ■ 会社の経営の基本方針

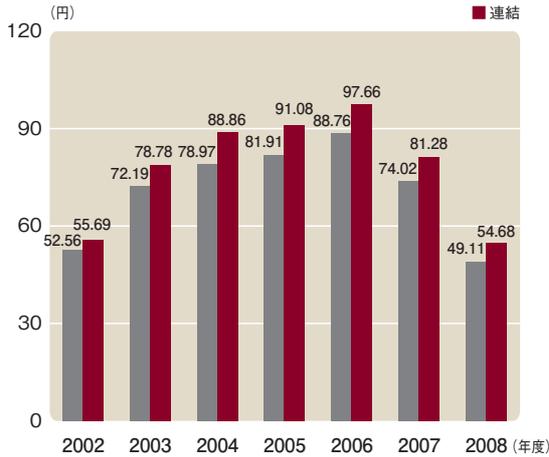
アイカグループは共生の理念のもと、たえざる革新により新しい価値を創造し、社会に貢献して「真にお客様に選ばれる企業集団—グッドカンパニー—」を目指しています。

また、グループ全体の企業価値の増大が株主の利益にもつながると認識し、経営体質の継続的な強化のため「スピード・効率・革新」をスローガンに活動しています。

## ■ 利益配分に関する基本方針

利益配分については、安定的な配当の維持および適正な利益還元を基本方針とし、業績に連動した配当政策を進めていく考えです。株主還元につきましては連結配当性向30%以上を目安に実施してまいります。

● 1株当たりの当期純利益の推移



● 1株当たりの年間配当金、配当性向の推移



## ■ IR活動

2008年度は下記のIR展示会に出展しました。当社のブースではパネル・製品サンプルを展示し、来場された一般投資家・アナリストに対し、当社の製品が身近なところでさまざまに使用されていることや、環境配慮型商品の開発に注力していることを説明しました。

### 東海三県ノムラ資産管理フェア2008

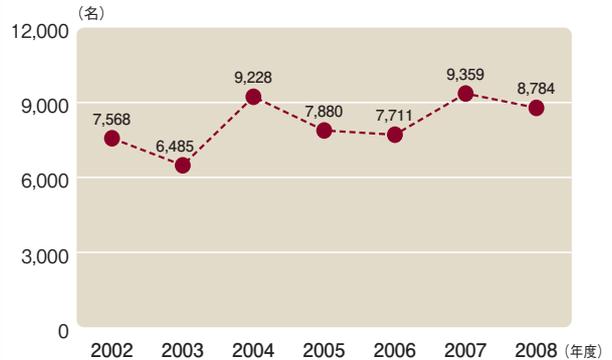
開催日：2008年9月19日、20日  
 会場：名古屋国際会議場  
 出展企業数：80社  
 来場者数：25,697名



## ■ 株式売買単位の引き下げ

当社は個人投資家の参加しやすい環境を作ることによって、当社の株式の流動性を高めるため、2004年8月2日より1単元の株式数を1,000株から100株に変更し、株式市場における投資家層の一層の拡大を促進しています。

● 株主数の推移



## ■ 情報開示(ディスクロージャー)

当社のホームページに参考情報を掲載しています。

Web <http://www.aica.co.jp/ir/index.html>

# 社会との関わり

## メッセナゴヤ2008 / エコプロダクツ2008への出展

環境展示会として2008年度は2つの展示会に出展しました。いずれも「その技術を、地球に還したい」をコンセプトに当社商品の地球環境への配慮に対する取り組みを分かりやすく紹介しました。

主な出展商品としては、接着剤ではエコエコボンド、塗材では

ジョリパット爽土、建築材ではノンステンポリ、住器建材ではセラルール、そして電子品では環境配慮型プリント配線板でした。

特に今年はLCA手法の活用による、資源の採取から製造までに排出したCO<sub>2</sub>量の算定を掲載し、主要な商品のカーボンフットプリントに近い情報提供を行いました。(詳細はP34を参照)

### 展示会・1

#### メッセナゴヤ2008開催概要

- テーマ：環境・エネルギー
- 会期：平成20年9月11日(木)～14日(日)
- 会場：ポートメッセナゴヤ(名古屋港金城ふ頭)
- 出展者数：342社・団体



●ポートメッセナゴヤ 出展ブース全体

### 展示会・2

#### エコプロダクツ2008開催概要

- テーマ：地球と私のためのエコスタイルフェア
- 会期：平成20年12月11日(木)～13日(土)
- 会場：東京ビッグサイト
- 出展者数：758社・団体



●エコプロダクツ展 来場の様子

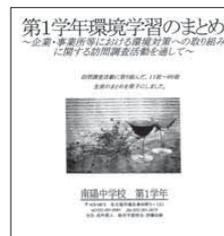
## 環境教育の実施(名古屋市立南陽中学生)

「総合的な学習の時間」における「環境に関する訪問調査活動」として、南陽中学校には3年連続で当社の環境保全活動に



●アイカ環境経営の説明

興味を示していただきました。1年生6名を名古屋支店に招き、アイカグループの環境保全に対する取り組みを説明し、また生徒さんから事前に寄せられていた質問に対して回答を行いました。後日、南陽中学校から「環境学習のまとめ」を受取り、生徒さんが十分にご理解され、さらに環境に対して取り組みを宣言してもらっていることに感心しました。



●「第1学年環境学習のまとめ」(表紙、まとめ)



# 社会との関わり

## 「企業の森づくり」活動

当社製品の原材料には多くの紙や木材を使用していることもあり、環境保全および社会貢献活動の一環として森林整備を身近で実施したいと、愛知県と「企業の森づくり」協定を締結しました。愛知県県有林(小牧市)3haを活動範囲に、社員及びOBの方がボランティアで森林整備を行うものです。期間は2008年6月から3年間で、2008年度は5回の環境保全活動を実施し、森林環境調査(簡便な植生調査、照度調査)環境美化活動(ゴミ拾い等の環境美化活動)、人工林整備(下草刈りや灌木類、枯損木等の除間伐等)の活動を行いました。

活動日(2008年度)	参加者数	活動内容
第1回 6月28日(土)	10名	森林環境調査、環境美化、下草刈り
第2回 7月12日(土)	18名	環境美化、下草刈り
第3回 10月18日(土)	14名	環境美化、下草刈り
第4回 11月 8日(土)	19名	森林環境調査、環境美化、下草刈り
第5回 3月 7日(土)	16名	森林環境調査、下草刈り、除伐



● 樹木の生育状況を調査する為、対象区域を2m格子に仕切ったところ



● 10月18日参加メンバーの集合写真

## 水辺クリーンアップ

「沼田川いかだ下り&クリーンアップ」が広島県の本郷ライオンズクラブの主催で2008年8月19日に行われ、地元企業や町内会等のおよそ15チームとともに当社の広島工場チームが参加しました。活動内容は手作りのいかだで沼田川の約2kmを下りながら水辺の美化活動を実施するもので、いかだのデザインとクリーン活動性が評価されます。2008年度は広島工場チームが優勝者として表彰されました。



● 優勝した広島工場チーム

## 工場見学(尾道市立原田小学校)

近隣にある尾道市立原田小学校から当社の広島工場を見学したいと依頼があり、2009年1月20日に児童12名と引率者2名による見学会を開催しました。接着剤や塗床剤の生産や、資源リサイクル/廃水処理などの環境保全活動に加えて、排水の汚れ具合を色で確認する実験を行い、小学生に分かり易く説明を行いました。



●広島工場 見学風景



●実験の様子

## インターンシップ生の受け入れ

2003年より、就職活動を控えた大学3年生および大学院1年生を対象に、インターンシップ生の受入を毎年行っています。6度目となる2008年度は、13名の学生を受け入れました。

講義、工場見学、営業同行等5日間のプログラムを通して事業内容や営業職の仕事内容を知り、メーカーの社会的役割や働くことへの理解を深めていただきました。大学生活では得られない経験や学び、気づきが多く得られると、参加学生の満足度も毎年高いものとなっています。

なお、内容の詳細や参加学生からのコメントを、当社採用ホームページ(リクルート>新卒採用>インターンシップ2008)にて公開しております。

**Web** <http://www.aica.co.jp/recruit/aicaintern2008/index.html>



●渡辺社長との記念撮影

## 名古屋大学社会福祉経済学 寄附講座開設

超高齢化社会を迎える現代日本の医療・福祉制度が抱える問題点に関する研究・調査を推進する名古屋大学の趣旨に賛同し、2009年6月に社会福祉経済学寄附講座を開設いたしました。

### ●本講座設置の背景

現在、日本は超高齢社会を迎えつつあります。しかし医療保険・介護保険の財政的行き詰まりにより医療デフレ政策が加速しており、医療ベッド群の削減と、施設・在宅医療への転換が推進されています。しかし、医療・介護サービスを受けるためのインフラやサービス整備が不十分な部分もあり、ベッド群削減が医療難民・介護難民を大量に生み出していく可能性も含んでいます。

本講座は、そのような日本が抱える社会的な大きな問題を医学・経済学・社会学・経営学・会計学等の幅広い観点から横断的に議論し研究する講座です。本講座の担当教授には、老年学研究分野の第一人者で、経済学者でもある名古屋大学岩尾智教授が担当されています。

# 環境目標と進捗状況

対象範囲 単独：アイカ工業(株)の本社・本社工場(アイホー含む)、碓日寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場  
 連結：上記5サイトにアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)を加えたもの  
 ※原材料のグリーン購入、工場周辺の清掃活動は単独にアイカ電子(株)を加えたもの

	目標項目	対象	2007年度実績	2008年度目標
地球温暖化防止	温室効果ガス排出量の削減	単独	17,421t-CO <sub>2</sub>	15,734t-CO <sub>2</sub> 以下
		連結	33,772t-CO <sub>2</sub>	35,369t-CO <sub>2</sub> 以下
	モーダルシフトによるCO <sub>2</sub> 排出量削減効果	—	2,990t-CO <sub>2</sub>	3,080t-CO <sub>2</sub> 以上
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出量の削減	単独	3,099t	2,953t以下
		連結	8,008t	8,311t以下
	埋立処分率の低減	単独	3.8%	1.00%以下
		連結	2.1%	0.51%以下
環境負荷物質の削減	PRTR排出・移動量の低減	単独	92t	100t以下
		連結	125t	130t以下
環境配慮型商品	環境配慮型新規上市品の開発・販売	—	売上比率：40.1%	売上比率：41%以上
	環境配慮型商品の拡販	—	売上比率：88.4%	売上比率：89%以上
グリーン購入	原材料のグリーン購入	※	グリーン購入率：91.8%	グリーン購入率：90%以上
地域社会への貢献	工場周辺の清掃活動	※	延べ74回	延べ72回以上
マネジメントシステムの構築・強化	マネジメントシステムの統合	連結	グループ環境、労安マネジメントシステムの統合達成	関係会社に対する統合の援助
情報開示	社会環境報告書の発行	—	年1回発行	年1回発行
	環境会計の実施	連結	年1回公表	年1回公表



その技術を、地球に還したい。

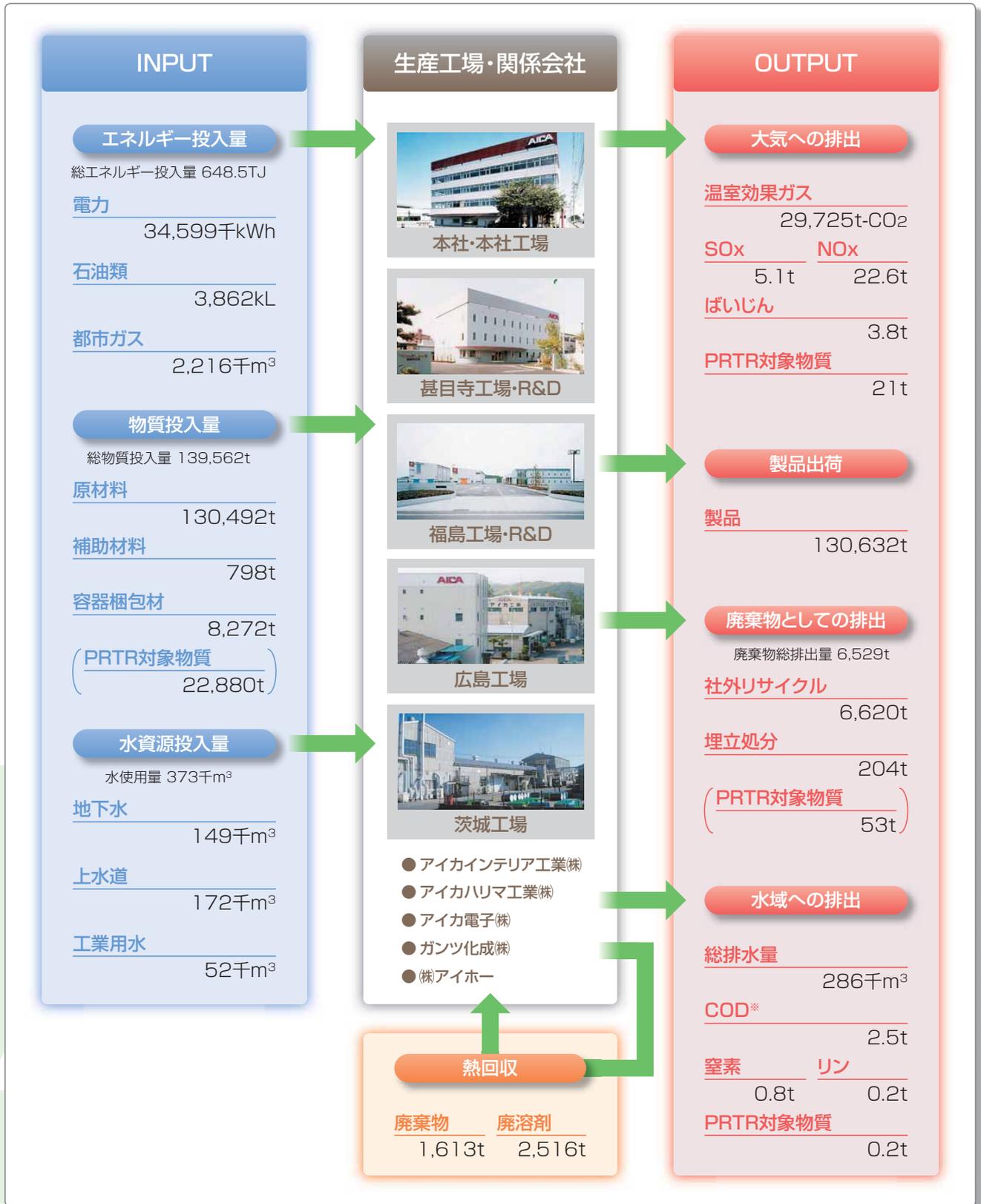
2008年度実績	評価	主な活動状況	掲載頁	2009年度目標	2011年度目標
14,651t-CO <sub>2</sub>	○	ESCO事業の展開、都市ガスボイラーの設置	27	14,900t-CO <sub>2</sub> 以下	16,500t-CO <sub>2</sub> 以下
29,725t-CO <sub>2</sub>	○	乾燥炉等設定温度の管理など		28,895t-CO <sub>2</sub> 以下	32,219t-CO <sub>2</sub> 以下
2,648t-CO <sub>2</sub>	×	JRコンテナ、船舶輸送の拡大	28	2,780t-CO <sub>2</sub> 以上	3,600t-CO <sub>2</sub> 以上
2,565t	○	工程内不良削減による廃棄物の削減	29	2,550t以下	2,700t以下
6,529t	○	工程内不良削減による廃棄物の削減		6,188t以下	6,885t以下
4.3%	×	リサイクルの推進(単純焼却物の増加)	29	3.0%以下	1.00%以下
2.5%	×	リサイクルの推進		2.0%以下	0.5%以下
32t	○	VOC物質の代替検討	29	80t以下	50t以下
92t	○	代替溶媒の検討、排ガス燃焼装置の設置		120t以下	100t以下
売上比率：42.1%	○	VOCを含まない商品の開発	32	売上比率：45%以上	売上比率：47%以上
売上比率：89.8%	○	VOCを含まない商品の開発	32	売上比率：90%以上	売上比率：91%以上
グリーン購入率：74.6%***	×	原材料グリーン購入規定の改訂、再調査		グリーン購入率：75%以上	グリーン購入率：80%以上
延べ74回	○	工場周辺の清掃活動	21	各サイト1回以上/月	各サイト1回以上/月
グループ環境/労安マネジメントシステムの定着	○	関係会社に対する統合の援助	9	環境、労安マネジメントシステムの発展	各マネジメント活動のレベルアップ
年1回発行	○	アイカグループ統合での活動充実		年1回発行	年1回発行
		第三者意見への対応	37		
年1回公表	○		26	年1回公表	年1回公表

\*\*\*対象アイテムの拡充に伴う見直しの結果、化成品の原材料のグリーン購入率が低下したことによる

# 2008年度マテリアルバランス

対象範囲：本社・本社工場、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)、(株)アイホー

2007年度と比較すると、生産量減の影響で、ほとんどの項目で約1割程度減少しています。



用語解説 ※ COD : Chemical Oxygen Demandの略。湖沼、海域の有機汚濁を測る指標。

# 環境会計

## 環境会計の目的

環境会計には2つの目的があると考えています。一つの目的は、社内に対して環境保全活動に費やしたコストや環境対策の効果を定量的に把握し、最小のコストで最大の効果を上げるための管理ツールとして活用することです。

もう一つの目的としては、社外に対してアイカ工業の環境への取り組みを積極的に公表・開示することで、「環境に優しい企

業」として社会から信頼される企業になるためのコミュニケーションツールとして活用していくことです。

アイカ工業では上記考え方に基づき環境省から1999年3月において「環境保全コストの把握及び公表に関するガイドライン」が公表されたのを契機に、環境会計を1999年度下半期分より公表しています。

## 環境保全コスト

(金額単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	投資額			費用額		
		前期	当期	対前期	前期	当期	対前期
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	192	103	54%	533	524	98%
内訳	①公害防止コスト	121	46	38%	179	158	88%
	②地球環境保全コスト	59	50	85%	67	91	136%
	③資源循環コスト	12	7	58%	287	275	96%
(2)	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	0	0	-	44	15	34%
(3)	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	3	20	667%	173	133	77%
(4)	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	8	26	325%	381	382	100%
(5)	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	0	0	-	3	0	-
(6)	環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	0	0	-	2	2	100%
(7)	その他のコスト	2	2	100%	2	2	100%
環境保全コスト合計		205	151	74%	1,138	1,058	93%

## 環境保全効果

効果の内容	効果の内容	環境負荷			
		前期	当期	対前期	
(1)	事業エリア内で生じる環境保全効果(事業エリア内効果)	廃棄物発生量	10,117t	8,256t	1,861t減少
		廃棄物埋立処分量	214t	204t	10t減少
		CO <sub>2</sub> 排出量	33,772t-CO <sub>2</sub>	29,725t-CO <sub>2</sub>	4,047t-CO <sub>2</sub> 減少
		環境汚染物質の排出・移動量	125t	92t	33t減少
(2)	上・下流で生じる環境保全効果(上・下流効果)	グリーン購入率(原材料)	92%	75%	18.8%減少
		(照明器具)	100%	100%	-
		(蛍光管)	100%	100%	-
		(OA機器)	100%	100%	-
		(車両)	100%	100%	-
(3)	その他の環境保全効果	モーダルシフトによるCO <sub>2</sub> 排出削減量	2,990t-CO <sub>2</sub>	2,648t-CO <sub>2</sub>	342t-CO <sub>2</sub> 減少

## 環境保全対策に伴う経済効果

(金額単位：百万円)

効果の内容	金額		
	前期	当期	対前期
熱回収によるエネルギー削減効果	105	170	162%
リサイクルによる効果	13	26	200%
物流効率化による効果	71	62	87%
環境配慮型商品による効果額	7,916	5,996	76%
経済効果合計	8,105	6,254	77%

## 集計上の基本的な考え方

- 対象期間 2008年4月1日～2009年3月31日
- 集計対象範囲 アイカ工業に以下の関係会社を含め集計しました。  
ガンツ化成株式会社、アイカハリマ工業株式会社、アイカインテリア工業株式会社、アイカ電子株式会社、株式会社アイホー
- 環境保全コストの算定基準  
設備投資 年度内の環境保全に関わる設備投資額を集計。翌年度にまたがる場合は当期分のみの金額を集計しております。
- 費用  
・人件費 部門毎に環境保全活動の時間に時間あたりの年間平均金額を乗じて計算しています。  
・減価償却費 1997年4月1日以降に取得した環境保全活動に関わる設備を対象としています。  
償却費の計算は財務会計の減価償却の方法と同一です。  
・その他費用 環境省のガイドライン2005年度版に準拠した分類により集計しています。

# 地球温暖化防止

## 温室効果ガスの排出削減(省エネルギー)

対象範囲：国内生産拠点：本社・本社工場(アイホー含む)、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)  
 海外生産拠点：アイカインドネシア社、テクノウッドインドネシア社、瀋陽愛克浩博化工有限公司、昆山愛克樹脂有限公司  
 国内非生産拠点：国内24営業店所

	2008年度目標	2008年度実績
温室効果ガス排出量(国内生産拠点)	35,369t-CO <sub>2</sub> 以下	29,725t-CO <sub>2</sub>

地球環境を保全する上で現在の最重要課題は地球温暖化防止とされています。アイカ工業では2002年度から本格的にエネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に着手しました。

2006年度からはその活動を国内アイカグループ生産拠点にも拡大し、エネルギー使用等の生産活動に伴う温室効果ガス(CO<sub>2</sub>+5ガス\*)排出量削減をアイカグループQEO会議のメインテーマに取り上げて継続的に活動を行っています。特にその排出量が多く、削減が困難と考えられる本社・本社工場や甚目寺工場ではミニプロジェクトを結成し、ESCO事業\*\*を導入する等、積極的に削減活動を行っています。

本社工場で以前から取り組んでいるESCO事業では、新たにボイラーの排熱回収等の方策実施により、約350t-CO<sub>2</sub>(2008年度)を削減しました。

この結果、エネルギー使用等に伴う国内生産拠点の温室効果ガス排出量については、生産量が減少したことも手伝い29,725t-CO<sub>2</sub>となり、昨年度実績から12.0%低減しました(売上高原単位では3.7%の削減)。また、1990年度と比較すると、グループ会社を含めた国内生産拠点として初めて絶対量で下回りました(1990年度比2.5%減)。

なお、アイカ工業の5生産拠点では1990年度比27.5%減となっています。

一方、海外生産拠点のアイカインドネシア社ではガス配管が

整備(2006年1月)と、供給が安定(2007年8月~)したことにより、全ボイラー(4基)の燃料を重油および軽油からのCO<sub>2</sub>発生が少ない天然ガスに転換を完了しています。

### 用語解説

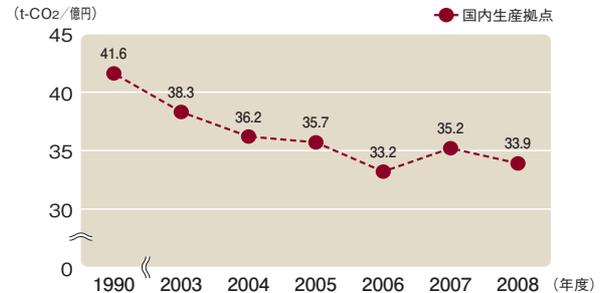
※5ガス：CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスすなわちメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄のこと。

※ESCO事業：Energy Service Companyの略で、省エネルギーを民間の企業活動として行い、顧客にエネルギーサービスを包括的に提供する事業

### 温室効果ガス排出量の推移



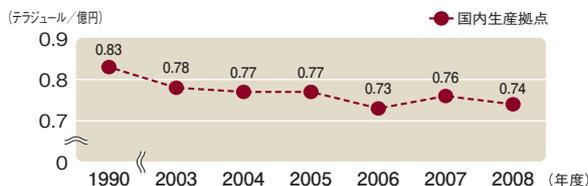
### 温室効果ガス排出量売上高原単位の推移



### エネルギー投入量の推移



### エネルギー投入量売上高原単位の推移



## 2008年度の主な取り組みおよび効果

### ●本社工場：

連続化粧材成型用ボイラーの重油ボイラーから都市ガスボイラーへの変更(60t-CO<sub>2</sub>/年の削減)

●本社工場  
連続化粧材成型用都市ガスボイラー



### ●甚目寺工場：

重油ボイラー4基全てを都市ガスボイラーへ変更(400t-CO<sub>2</sub>/年の削減)

●甚目寺工場  
都市ガスボイラー



●アイカインテリア工業(株)：

ポストフォーム加工用ヒーター温度設定および本数の見直し

●アイカハリマ工業(株)：

炉筒煙管ボイラーを小型貫流ボイラーに変更(163t-CO<sub>2</sub>/年の削減)

●アイカ電子(株)：

デマンド抑制システムの導入(25t-CO<sub>2</sub>/年の削減)

●ガンツ化成(株)：

省エネ型インバーター付50KWコンプレッサーの導入

## 2009年度の取り組み

改正省エネ法が2009年4月1日から施行され、エネルギー使用量の報告が従来の工場・事業場単位から、営業店所も含めた企業単位へと変更になりました。また、エネルギー管理統括者等を選任し、企業全体でエネルギー管理体制を推進することが義務付けられます。

この特定事業者に当グループとしては、アイカ工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)が該当します。このため、これまで以上に温室効果ガス排出量(エネルギー使用量)の削減、管理体制の確立に注力していきます。

## グリーン物流\*

### 用語解説

※グリーン物流：モーダルシフト等によりCO<sub>2</sub>排出量を削減させるなど環境負荷を低減させる物流のこと

### 1 改正省エネルギー法への対応

対象範囲：アイカ工業(株)、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、アイカエレテック(株)、(株)アイホー

	2008年度目標	2008年度実績
輸送トンキロ	9,486万トンキロ以下	9,096万トンキロ

急速に地球温暖化が進んでいる現在、運輸部門における温室効果ガスの排出削減が重要課題のひとつです。このため、2006年に省エネ法が改正され、輸送に係る省エネ推進のため、貨物輸送量が3,000万トンキロ以上の荷主(特定荷主)は年1回定期的にエネルギー使用量とエネルギー使用の合理化計画の報告が義務づけられました。

2008年度は、2007年度比1%以上の省エネルギー計画を策定しモーダルシフト、トラック輸送の効率化等を推進しました。その結果、輸送に係るエネルギー使用量は前年度比5.1%減の9,096万トンキロでした。

2009年度目標としては、2008年度比1%以上の省エネルギー計画を策定し、継続して取り組んでいきます。

### ●輸送に関するエネルギー使用に係る二酸化炭素排出量、原単位の推移



### 2 モーダルシフト\*への取り組み

対象範囲：JRコンテナの活用 / 本社工場、甚目寺工場、広島工場  
船舶の活用 / 本社工場、甚目寺工場

	2008年度目標	2008年度実績
モーダルシフトによるCO <sub>2</sub> 削減量**	3,080t-CO <sub>2</sub> 以上	2,648t-CO <sub>2</sub>

当社は、物流における環境負荷を低減するために、2000年度から製品や原料の輸送手段をトラックから鉄道や船舶に変更するモーダルシフトを行っています。

2008年度は貨物出荷量が大幅に減少したため、前年度に比べJRコンテナの利用は23.4%の減少、北海道向け船舶の利用は9.7%の減少となりました。その結果、モーダルシフトによるCO<sub>2</sub>削減量の目標は未達に終わりました。

2009年度はモーダルシフト輸送重量9,500t、CO<sub>2</sub>排出削減量2,780t-CO<sub>2</sub>の目標達成に向けて活動をしていきます。

### 用語解説

※モーダルシフト：地球温暖化防止のため、製品や原材料の輸送をトラックから鉄道や船舶に代えること。(1tの貨物を1km運ぶ時に排出するCO<sub>2</sub>量は、鉄道はトラックの1/8、船舶はトラックの1/4)

※CO<sub>2</sub>削減量：(財)全国通運連盟が2002年10月に発行したパンフレットに記載された貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位の数値を基に算出してあります。

### 3 定期便トラックの積載効率の向上

対象範囲：本社工場、甚目寺工場、アイカインテリア工業(株)

	2008年度目標	2008年度実績
定期便トラックの積載率	80%以上	77.8%

定期便トラックの積載率を向上させることで効率的な輸送を行い、使用トラック台数の削減、CO<sub>2</sub>排出量削減を図るべく積載率の向上を目標に定めて活動しています。

2008年度は、輸送重量53,662t、積載率77.8%と前年度と比較しほぼ横ばいでした。2009年度の目標は、積載率82%以上です。貨物の集約及び配達エリアの見直しにより、一運行あたりの積載重量を増やし、より効率的な配送を目指します。

# 環境負荷の低減

対象範囲：国内生産拠点：本社・本社工場（アイホー含む）、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場  
 アイカインテリア工業㈱、アイカハリマ工業㈱、アイカ電子㈱、ガンツ化成㈱  
 海外生産拠点：アイカインドネシア社、テクノウッドインドネシア社、瀋陽愛克浩博化工有限公司、昆山愛克樹脂有限公司

## 化学物質の管理

対象範囲：国内生産拠点

2001年4月に施行されたPRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）により、化学物質の排出量、移動量の把握・届出義務が生じました。

2008年度は、新たにアイカハリマ工業㈱加西工場に排ガス燃焼処理装置を1基増設して無害化処理を実施し、大気への排出量を抑制しました。その他、対象物質の転換等を進めた結果、排出・移動量の推移はグラフの通りであり、2008年度は2007年度と比較し26%削減しました。

2009年度は改正PRTR法が10月1日に施行され、指定化学物質が追加されます（第一種指定化学物質：現行354物質→改正462物質、第二種指定化学物質：現行81物質→改正100物質）。この対応準備を進めます。



## VOC排出量の削減

対象範囲：本社・本社工場、アイカハリマ工業㈱

浮遊粒子状物質（SPM）および光化学オキシダントによる大気汚染の防止を図るため、これらの原因物質の一つである揮発性有機化合物（VOC）の排出を抑制するため、大気汚染防止法が2004年5月に改正され2006年4月から全面施行されました。この改正大気汚染防止法では2000年度を基準に2010年度までにVOCの大気排出量を3割削減することを目標に掲げています。

当社では1990年から生産工程で使用されるVOCの大気への排出量の削減を最優先課題としてとらえて活動をしてきました。特にVOC排出量の多い本社工場では建材材生産用の乾燥設備に排ガス燃焼処理装置を4基設置し、VOCの排出量削減に努めています。また、同様な乾燥設備を有し多量の

VOC排出が懸念されるアイカハリマ工業㈱加西工場でも、この排ガス燃焼処理装置を2007年に2基、2008年に1基設置し稼働させました。これらの設備では燃焼によって発生した熱をエネルギーとして回収し、生産に再利用しています。

これらの方策を実施した結果、改正大気汚染防止法の基準年度である2000年度の大気へのVOC排出量905tを、2008年度では42tへと95%の削減をしました。



## 産業廃棄物の削減・リサイクル

対象範囲：国内生産拠点、海外生産拠点

	2008年度目標	2008年度実績
産業廃棄物排出量(国内生産拠点)	8,311t以下	6,529t
埋立処分率(国内生産拠点)	0.51%以下	2.5%

産業廃棄物の削減は地球温暖化ガス削減とともに、アイカグループの重要課題のひとつであり、1998年環境理念、環境方針の策定をすると同時にその活動を開始しています。

2008年度はQEOプロジェクト等を通じ、工程内不良率の削減やリサイクルの推進、有価物化への転換等の活動を行いました。

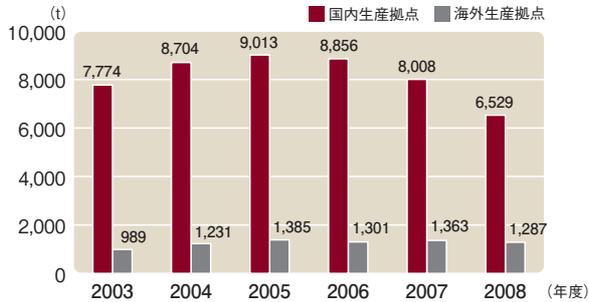
その結果、国内生産拠点の産業廃棄物排出量に関しては、生産量の減少影響の要因はあるものの1,479t（18.5%）削減し目標を達成しました。埋立処分量および埋立処分率は204t、2.5%と前年度とほぼ横ばいで推移しました。

一方、産業廃棄物のリサイクル率向上のため、種々の方策を実施しています。

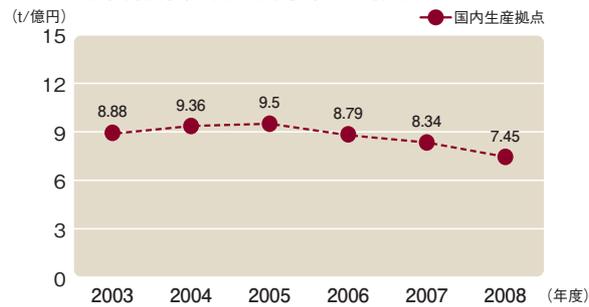
2008年度の産業廃棄物のリサイクル率は96.2%であり、2007年度と比較するとこちらもほぼ横ばいでした。

2009年度は福島工場の埋立処分量の削減およびリサイクル率向上に注力して活動します。

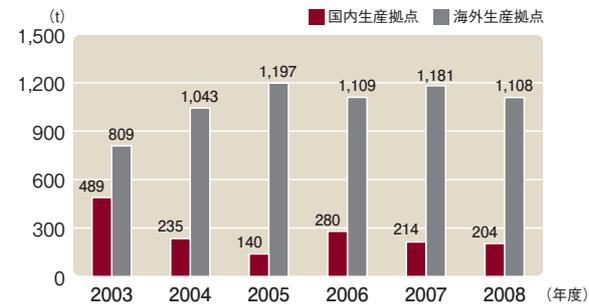
● 産業廃棄物排出量の推移



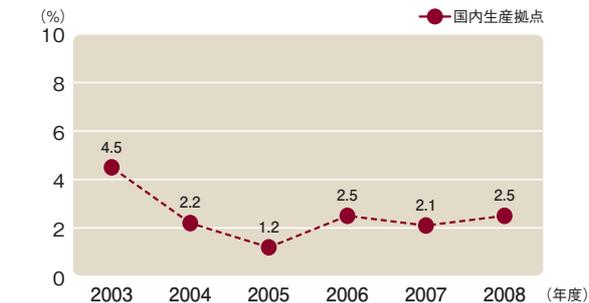
● 産業廃棄物排出量売上高原単位の推移



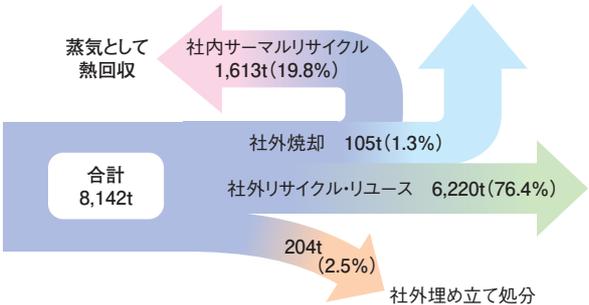
● 産業廃棄物埋立処分量の推移



● 産業廃棄物埋立処分率の推移



● 2008年度産業廃棄物処理状況(国内生産拠点)



■ 水使用の削減

対象範囲：国内生産拠点、海外生産拠点

本社工場では、1979年に300t水槽を設置し、化粧板製造工程から大量に発生する冷却水(約10,000m<sup>3</sup>/日)を回収し、循環使用しています。また甚目寺工場でも、接着剤反応釜の冷却に使用した冷却水(約7,000m<sup>3</sup>/日)の回収・循環使用により、水使用を削減し、尾張地区の地盤沈下、地下水位低下の防止に努めています。また、関係会社のアイカハリマ工業(株)でも化粧板製造のプレス工程から発生する冷却水を(約1,800m<sup>3</sup>/日)を回収し、循環使用をしています。

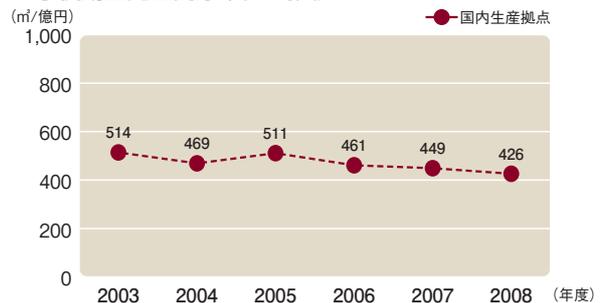
2008年度、本社工場では地下水揚水量の日々管理の徹底、冷却排水回収ポンプ等の保守・点検の確実な実施等により、2007年度に比べ水使用量を38,800 m<sup>3</sup> (29.5%)削減しました。

2009年度も日常管理の徹底および設備異常の早期発見に努め、2008年度実績を下回るよう更に水使用量の削減に努めます。

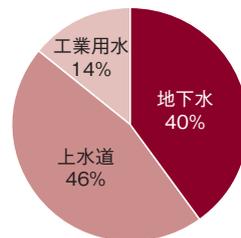
● 水使用量の推移



● 水使用量売上高原単位の推移



● 2008年度水使用量の内訳



# 環境リスク管理

対象範囲：国内生産拠点：本社・本社工場(アイホー含む)、甚目寺工場、福島工場、広島工場、茨城工場、アイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、アイカ電子(株)、ガンツ化成(株)

## ■ 土壌、地下水調査

過去に有機塩素系溶剤、有害重金属等を使用した履歴のあるアイカ工業および関係会社の工場を中心に、2001年度から自主的に土壌、地下水の汚染状況の調査を開始し、2003年度までに完了しました。その結果は表の通りです。

事業所、会社名	自主調査結果
本社・本社工場	環境基準適合
甚目寺工場	環境基準適合
広島工場	環境基準適合
茨城工場	環境基準適合
アイカインテリア工業(株)	環境基準適合
アイカハリマ工業(株)	環境基準適合
アイカ電子(株)	環境基準適合

※なお、福島工場、ガンツ化成(株)は土壌環境基準が設定されている物質を過去および現在不使用のため調査対象から外してあります。

## ■ 化学物質のリスクアセスメント

当社では、非常に多く(約1,500種類)の化学物質を使用しています。その中には法規制対象外のものや有害性情報が乏しいものもあります。それらの化学物質を含め、化学物質のリスク評価とその結果に基づく適切な管理を行うシステムを確立する活動を2007年度から開始しました。具体的には、愛知教育大学保健環境センターと協同でその化学物質の危険等級を表示した簡易MSDSを作成し、作業者に化学物質の危険性を周知しようとするものです。



● 製品安全データシート (簡易版)

## ■ 環境法規の遵守状況等

2008年度、アイカグループでは環境関連の法令違反または協定違反等により、指導、勧告、命令、処分等を受けるに至った事例はありませんでした。また、環境に関する訴訟もありませんでした。

## ■ 近隣からの苦情と対応

2008年度は下記の2件の苦情が近隣住民の方からありました。このため早急に是正対策を行い適切に対処しました。

ガンツ化成(株)	
状況	モノマーを床面へこぼしたことによる臭気に関する苦情
対策および結果	モノマー計量時の手順書作成、掲示。 その後苦情はありません。
甚目寺工場	
状況	樹脂を保管中に内部蓄熱と考えられる発熱で発煙、臭気発散し苦情
対策および結果	作業手順および保管量遵守の徹底。 その後苦情はありません。

- 本社・本社工場 …………… ありませんでした。
- 福島工場…………… ありませんでした。
- 広島工場…………… ありませんでした。
- 茨城工場…………… ありませんでした。
- アイカインテリア工業(株) …… ありませんでした。
- アイカハリマ工業(株) …… ありませんでした。
- アイカ電子(株)…………… ありませんでした。

# 環境配慮型商品

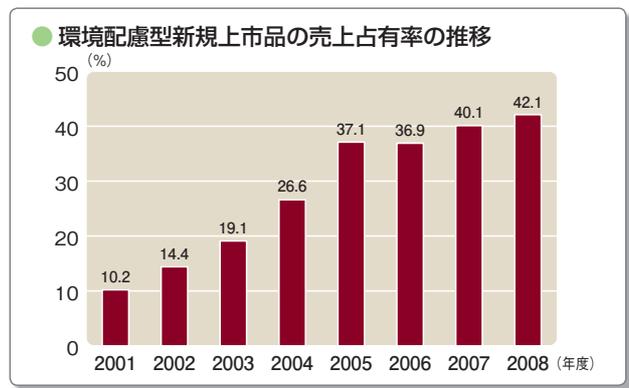
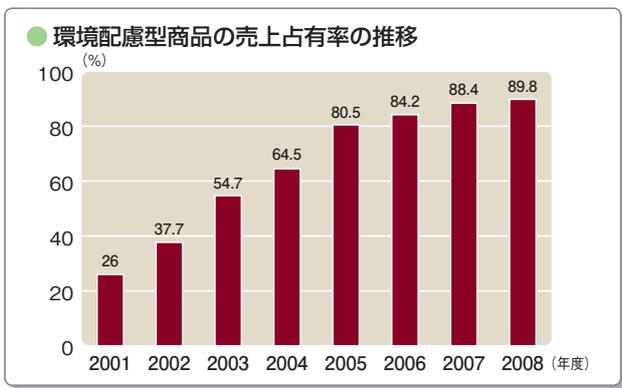
	2008年度目標	2008年度実績
環境配慮型商品の拡販	売上占有率：89%以上	売上占有率：89.8%
環境配慮型新規上市品の開発、販売	売上占有率：41%以上	売上占有率：42.1%

当社では環境負荷物質を削減、再生素材を利用、処理・処分が容易、リサイクルが可能、省資源・省エネルギーに寄与、ロングライフなど「人の健康と地球環境へ配慮した商品」を環境配慮型商品と定義しています。

この環境配慮型商品の開発・生産・販売を当社は環境経営の大きな柱としてとらえ、注力しています。2008年度は住器建材品で伸び悩んだものの、化成品、建装材、電子品で目標を達

成したため、環境配慮型商品の売上占有率は89.8%（目標は89%以上）となりました。2009年度は、売上占有率90%以上を目標に活動します。

また、環境配慮型新規上市品（開発、上市して3年以内の商品）の2008年度の売上占有率は42.1%（目標は41%以上）であり、前年度に比べ2.0%上昇しました。



## 環境配慮型商品の系譜

当社の環境配慮型商品は1981年に樹液を採取し終えたゴムの木を再利用した集材材「イースタンオーク」を発売したことに始まります。その後、揮発性有機化合物による室内空気汚染問題が発生し、ホルムアルデヒドの放散を抑制したF☆☆☆☆（エフフォースター）の建材、接着剤や厚生労働省指定の13物質を使用しない塗材、接着剤等を発売し、その売上高および売上占有率を大きく伸ばしました。現在はこれまで先行していたエコエコボンドに加え、4VOC基準\*に対応した接着剤、化粧品、住器建材商品の開発に注力しています。

現在の代表的な環境配慮型商品を一覧表にまとめました。

	商品名	選定理由
化成品	エコエコボンド、スーパーエコエコボンド	環境負荷物質を削減
	ジョリパット、シルキーパレット	環境負荷物質を削減
	ピュール、ジョリエースエコ	環境負荷物質を削減
	アイカメルト(自動車ランプ用、太陽電池パネル用)	処理・処分が容易、部材のリサイクル可能
建装材	メラミン化粧板	ロングライフ、環境負荷物質を削減
	はく離可能化粧板	処理・処分が容易、部材のリサイクル可能
	アイカノンスチポリ	環境負荷物質(スチレン)を削減
	マーレス不燃、マーレスボード	環境負荷物質を削減
住器建材	イースタンオークカウンター	再生素材を利用、環境負荷物質を削減
	ラビアート玄関ドア	省エネルギーに寄与
	セーラル、アイカコンバクト	ロングライフ、環境負荷物質を削減
	セーラルonタイル工法	処理・処分が容易
電子品	ポストフォームカウンター、ポストフォーム扉	ロングライフ、環境負荷物質を削減
	鉛フリー基板、ハロゲンフリー基板	環境負荷物質(重金属、ハロゲン)を削減

## 用語解説

※4VOC基準：日本接着剤工業会の「室内空気質汚染対策のためのVOC自主管理規定」に基づく自主登録制度。建材からのVOC放散速度基準化研究会より公表された4VOC(トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン)の放散速度自主基準値に対応して、4VOCを組成に配合していない製品で、次の含有量管理値で管理された製品について4VOC基準適合製品である旨を宣言するものです。

## 日本接着剤工業会4VOC基準適合の含有量管理値

	室内濃度指針値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	放散速度基準値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^2\cdot\text{h}$ )	含有量管理値 (%)
トルエン	260	38	0.1未満
キシレン	870	120	0.1未満
エチルベンゼン	3,800	550	0.1未満
スチレン	220	32	0.015未満

# 環境配慮型商品

## 環境配慮型商品の紹介

### ● 太陽電池用シール材 アイカメルトHX-60

その特徴は以下の通りであり、ユーザーの仕様に合わせてシール方法の提案も可能です。



- 太陽電池パネルのアルミフレームとガラスの接着

- 防水性に優れ、パネルの耐久性向上に寄与する。
- 多種多様なモジュールに使用できる。
- 一般のアプリケーターで自動精密塗布が可能である。
- 塗布、接着時にVOCを発生しない。

### ● 太陽電池用シール材 開発者の声



● R&Dセンター  
化学品開発部 第二グループ  
ホットメルト開発チーム  
佐藤智彦

#### ● 開発の背景

アイカ工業の接着剤・シール材と太陽電池との出会いは数年前で、近年の様に太陽電池市場が拡大する前のことでした。アイカの接着剤の主力用途は建材用途が中心で、入社した時の研究テーマも建材用途でした。当時はR&Dセンターが発足した頃で、電子材料、自動車等の将来的な成長が見込める分野に注力し始めた時

で、当時の先輩方が課題であった耐荷重性の課題をクリアし、大きな一歩を踏み出したと聞いております。

近年、世界的に太陽電池製造量・メーカーが増加し、競争が激しくなるなか、当時のシール材では解決できない新たな課題も出て参りました。幸いにも多くのユーザーとご一緒に課題を解決させて頂く事ができ、多種多様な構造の太陽電池モジュールに適するシール材を開発することができました。

#### ● 開発の苦労

太陽電池用シール材を開発するためには、専門の化学分野に加え、太陽電池に使用される各材料、製造方法、各国の規格などを把握・理解する必要があります。太陽電池の舞台は世界。日進月歩の業界ですので、絶えず勉強の毎日、寝る間も惜しいくらいです。

### ● ジョリパットフレッシュ JQ-800

ジョリパットを施工した壁面を改修する場合、従来のアクリル樹脂のトップコートでは艶が出てしまい、ジョリパット本来の艶消しで砂壁状の質感を損なっていました。このジョリパットの質感を再現するには、下地を新設し、再度ジョリパットで塗り直しする必要があり、長い工期と高いコストを要しました。このためジョリパット壁面にローラーで重ね塗りするだけで新築時の質感を再現する新しいトップコート「ジョリパットフレッシュ」を開発しました。これにより、ジョリパットと同じ艶消しで砂壁状の質感が得られ、新築時と変わらない外観が甦ります。

特徴は下記の通りです。

- ジョリパットと同等の質感を有する。
- ローラーで簡単に施工できる。
- すぐれた耐候性を有する。
- 豊富なカラーバリエーション(203色)



● ローラーでの施工

### ● アイカクオリティーワン A-Q1

新しい酢酸ビニル樹脂系エマルジョン系接着剤です。環境配慮した接着剤として好評を得ているアイカエコエコボンドA-1400と比較して、洗浄性を改善しました。今までよりも少ない水で使用後の器具等の洗浄が可能であり、さらに環境に配慮した接着剤になっています。

フラッシュパネル、一般木工、建具等の接着作業に最適です。



## LCAの活用

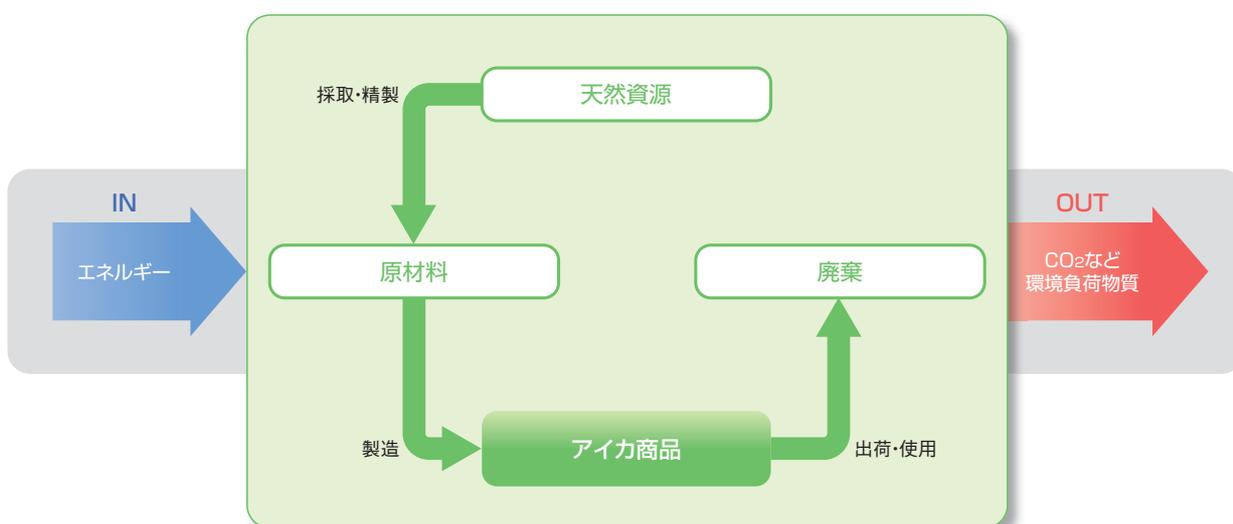
当社では商品を開発するにあたり、ライフサイクルアセスメント(LCA)を導入・活用しています。LCAとは、資源の採取、精製、商品の製造、物流、使用、廃棄に至るまで、その商品の一生で環境に与える影響を評価する手法です。LCAを実施することで、商品製造時等のCO<sub>2</sub>排出量等を算出することができ、カーボンフットプリント\*としての利用も可能です。

### 用語解説

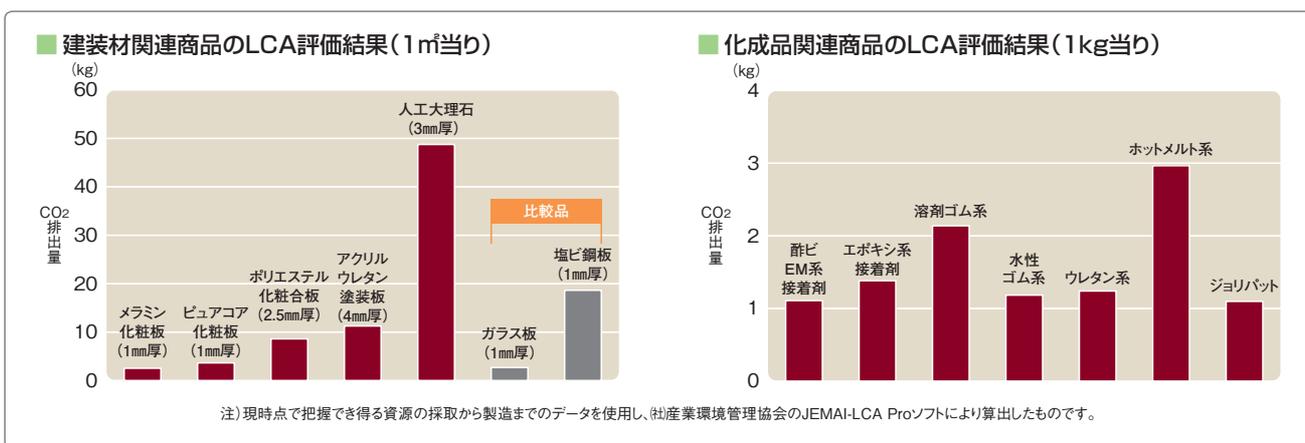
#### \*カーボンフットプリント

商品のライフサイクル全般にわたって排出された温室効果ガスをCO<sub>2</sub>排出量に換算して表したものです。商品パッケージなどに表示して、消費者が環境に配慮した購買活動を促すために用いられる。

### ライフサイクルアセスメント(LCA)の概念図



### アイカ商品のLCA評価結果



これによれば、当社の主力商品であるメラミン化粧板、ポリエステル化粧合板は、人工大理石や塩ビ鋼板と比べて、環境に優しい商品と言えます。また当社の化成品関連商品については、酢ビエマルジョン系、水性ゴム系接着剤やジョリパットはCO<sub>2</sub>排出量が少なく環境に優しい商品と言えます。一方、有機溶剤を

使用する溶剤ゴム系接着剤や製造時に多くのエネルギーを使用するホットメルトはCO<sub>2</sub>排出量が高くなります。

当社の商品はほとんどが直接ユーザーに提供されない中間製品のため、この結果はカタログ等を通じて順次公表していきます。

# 関係会社の取り組み ～アイカインテリア工業株式会社の取り組み状況～

## ● 会社概要

- 所在地：愛知県小牧市小木南1丁目99番地
- 従業員数：50名(派遣社員7名含む)
- 資本金：7,500万円
- 生産品目：メラミン化粧板のポストフォーム加工品



● 紹介者：生産部長 伊藤徹浩



● アイカインテリア工業(株)全景

## ■ 環境保全への取り組み

アイカグループの一員として、重要課題である温室効果ガスの排出量削減と産業廃棄物削減を会社目標に掲げて継続的に取り組んでいます。

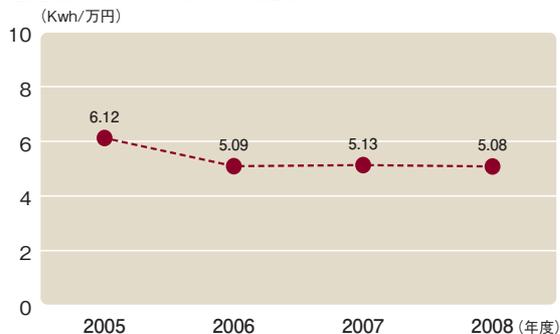
当社では、温室効果ガスの排出量の80%はポストフォーム加工時の電力使用で発生しており、電気使用量の削減が大きな課題です。2008年度は2007年度に引き続き、下記方策を実施しました。

- ヒーター本数、温度設定の見直し
- 生産設備休止時間(休憩時)のコンプレッサー、照明消灯の実施
- 乾燥炉でのコンプレッサー廃熱利用

その結果、2008年度の実績は1,146,000Kwhとなり生産高原単位で1%（絶対量で17%）削減しました。

産業廃棄物削減については、メラミン化粧板の端材活用を推進した結果、2008年度は8tの有効活用を行ない廃棄物削減に寄与いたしました。

### ● 電力使用量生産高原単位推移



## ■ 社会貢献活動

地域貢献活動の一環として、工場周辺の清掃活動を週1回実施しています。

## ■ 安全衛生活動

労働災害0件を目標に活動し安全意識の向上を目的に見え化を進めました。

実施事項は下記の通りです。

- 月1回の安全パトロールを実施、指摘箇所を掲示板に表示、周知すると共に対策の実施状況も見え化
- 危険箇所の見え化として製品により機械設備が移動するため、移動範囲を色分け表示
- 安全通路の確保、路面への注意表示
- 危険源の抽出、リスク低減活動の推進、安全教育の実施



● 指摘箇所の掲示、改善実施箇所の表示



● 設備の移動範囲表示



● 路面への注意表示

# 関係会社の取り組み ~アイカハリマ工業株式会社の取り組み状況~

## 会社概要

- 所在地：加西工場(物流センター併設)  
兵庫県加西市網引町字丸山2001-42  
本社工場  
兵庫県加西市北条町横尾395番地
- 従業員数：127名(本社+加西+物流 派遣 パート含む)
- 資本金：7,200万円
- 生産品目：アイカセーラム、アイカタフウォール、  
アイカメラミン化粧板



紹介者：加西工場長 岡咲彰



加西工場全景

## 環境保全への取り組み

アイカグループの一員として、重要課題である温室効果ガスの排出量削減と産業廃棄物削減を会社目標に上げて活動しています。2008年4月に、加西工場第二工場棟が完成し、12尺多段プレス1基およびメラミン樹脂含浸紙用乾燥機1基を新たに導入しました。これにより、念願であった樹脂の製造から製品までの一貫生産ラインが完成しました。その結果、3×6尺メラミン化粧板の2丁取りが可能になり、約18%の端材の発生が抑えられ、廃棄物削減に寄与しています。

その他の関連設備も下記のように環境保全に配慮しています。

- 蓄熱式排ガス燃焼装置を3基設置、排ガス中のVOCを燃焼させ無害化するとともに、熱風を乾燥機の熱源として再利用
- 高効率貫流ボイラーの導入
- インバータ制御化
- 建屋は自然採光と外気取り込みによる省エネ構造
- ドレン回収による熱回収
- 排水のクローズド化

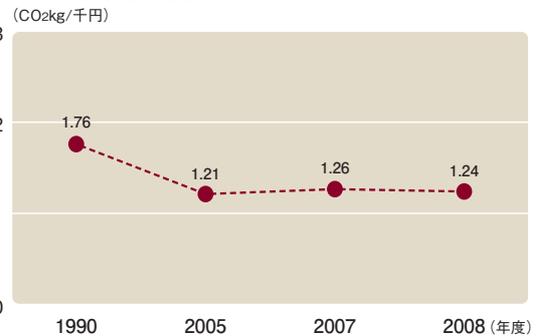


蓄熱式排ガス燃焼装置3基設置



3×12尺ホットプレス機

## CO<sub>2</sub>生産金額原単位推移



## 社会貢献活動

本社工場では毎週近隣の公園までの遊歩道の清掃活動を実施。加西工場は工業団地連絡協議会に所属し、加古川水系クリーンキャンペーンに参加、その他、交通安全運動、秋祭り等の地元行事にも協賛しています。

## 安全衛生活動

加西第二工場立ち上げから3件の不慮災害が発生しました。これを機会に安全衛生プロジェクトを立ち上げ0災害を目指して活動しています。実施項目としては下記の通りです。

- 危険源の見える化
- ビデオ研修等安全教育の実施
- 安全パトロール安全衛生委員会の開催



安全教育



周辺清掃活動

# 第三者意見

## ■ アイカグループの環境経営チャレンジ



● 愛知教育大学・保健環境センター

久永 直見

アイカグループ(以下、アイカ)の社会環境活動への3回目の第三者意見です。担当の方々から活動状況を聞き、工場に足を運ぶたびにアイカの活動への理解は深まりました。そして、今、感じるのは、アイカは環境経営の活きた展示場でもあるということです。それは、品質、環境、労働安全衛生が三位一体として位置づけられ、一人でもできる活動から、関係者が協力して取り組む活動、全社レベルの決定がある活動まで、多彩な活動が、たゆみなく、かつ毎年、革新的に展開されているからです。日本経済新聞社による「企業の環境経営度調査」で化学部門77社中3位という評価は、アイカが環境経営をいかに重視しているかを端的に示していると思います。私は産業医学を専門とし、大学の安全保健・環境保全に携わっていますが、アイカの取り組みには、私たちも見習いたいことが多数あります。

2008年度のアイカの環境経営には多数の新たな取り組みや前進がみられます。私の見聞の範囲で主なものを企業組織、社会への情報提供、社内広報、施設整備、労働安全衛生、地域社会との協調と分類して並べると次のようになります。

### 企業組織

- コーポレート・ガバナンス強化のための製品リスク管理委員会の発足



### 社会への情報提供

- 環境展示会の展示商品に製造までに排出したCO<sub>2</sub>量を明示
- 製品カタログに二酸化炭素生成量を表示
- 製品の安全性情報をユーザー等に668件提供

### 社内広報

- 品質・環境・労働安全衛生ニュースを18回発行※

### 施設整備

- 廃棄物・排ガス燃焼処理装置増設で排出大幅減と燃焼熱再利用※
- ボイラー燃料を重油から都市ガスに替え、CO<sub>2</sub>排出を年460トン減
- エネルギー投入、温室効果ガス排出、産業廃棄物、水使用ともに減少

- 省エネと健康を高度に追求した名古屋支店竣工

### 労働安全衛生

- 職場の危険源抽出・リスク評価規程の改定と完全運用※
- 独自作成の簡易な製品安全データシートと一目瞭然の危険有害性周知看板※
- 労働安全衛生教育を延2,772人が受講
- 甚目寺工場の反応釜に設けた蓋開閉及び局所排気装置※
- 交通災害防止のためカメラ付きドライブレコーダーを活用
- 労働災害度数率・強度率の低下
- 新型インフルエンザ対策としての行動計画の策定

### 地域社会との協調

- 岐阜県/札幌市等5つの自治体との環境創出協定締結/エコ事業所認定
- 愛知県との協定にもとづく県有林3haの環境調査と整備
- 広島県沼田川での水辺クリーンアップで優勝

※印は、7月の工場訪問で実際にみて、これは良いと思った取り組みです。例えば、生産工程で出た可燃性廃棄物や揮発性有機化合物を燃やして、その熱エネルギーをボイラーで再利用する設備はその規模が大きいだけでなく、実によく考えた構造になっています。反応釜の蓋部分の改善は、重い蓋の開閉を容易にし、有害物吸入も防ぐ優れた改善事例だと思います。また、アイカ独自の職場のリスク評価と危険有害性周知看板は、私の勤める大学でもお手本にさせてもらつつもりです。昨秋、アイカでは、樹脂製品の不具合品を保管中に化学反応が進み発煙するという予期し難い出来事がありましたが、リスク評価と社員教育が進めば、そうしたことも無くなるでしょう。

今回の結論としては、未着手の大きな問題は見当たらず、経済変動の中でも創意工夫しつつ現在の取り組みを、発展させることが重要だと考えます。アイカの全従業員が、健康・安全に働き、地域社会と共に栄え、健康・安全な製品を世界に提供しつづけることを願っています。

# Q・E・O(品質、環境、労働安全衛生)活動のあゆみ

1976年	・安全環境課を設置
1977年	・新川工場に資源回収ボイラーを設置 (産業廃棄物排出量削減に寄与) ・甚目寺工場に排水処理装置(凝集沈殿法)を設置
1978年	・甚目寺工場に冷却塔を設置
1979年	・新川工場に300t水槽を設置(冷却水を回収し再利用を図る)
1981年	・樹液を採り終えたゴムの木を再利用した集成材「イースタンオーク」を発売
1984年	・甚目寺に資源回収ボイラーを設置
1990年	・新川工場に排ガス処理装置(1号)を設置
1993年	・甚目寺工場に排水処理装置(活性汚泥法)を設置
1996年	・アイカ電子(株)がISO9002を認証取得(9月)
1997年	・甚目寺工場がISO9001を認証取得(12月)
1998年	・新川工場に排ガス処理装置(2号)を設置 ・新川工場がISO9001を認証取得(3月) ・アイカ中国(株)がISO9002を認証取得(9月) ・環境理念、環境方針を策定。EMSプロジェクトを発足(10月)
1999年	・新川工場がISO14001を認証取得(9月) ・環境報告書1999を初めて発行。環境会計も公表(11月)
2000年	・大日本色材工業(株)がISO9001を認証取得(1月) ・甚目寺工場がISO14001を認証取得(3月) ・グリーン購入基本方針およびグリーン購入ガイドラインを作成(4月) ・環境報告書2000を発行(5月) ・新川工場に廃熱利用排ガス燃焼装置を設置(7月) ・福島工場がISO9001を認証取得(9月) ・アイカ電子(株)がISO14001を認証取得(12月)
2001年	・本社、福島工場がISO14001を認証取得(1月) ・アイカ中国(株)がISO14001を認証取得(2月) ・環境報告書2001を発行(6月) ・本社、新川工場、甚目寺工場、福島工場がOHSAS18001の適合証明を受ける(8月) ・本社、新川工場がゼロエミッションを達成(8月) ・福島工場がゼロエミッションを達成(10月) ・甚目寺工場がゼロエミッションを達成(11月) ・エコプロダクツ2001に初めて出展(12月)
2002年	・アイカハリマ工業(株)がゼロエミッションを達成(3月) ・アイカ エコエコボンドシリーズを販売(4月) ・新川工場の廃プラ焼却炉を休止(6月) ・メラミン化粧板廃棄物をメラミン化粧板の原材料としてリサイクルする技術を開発(7月) ・環境報告書2002を発行(7月) ・メラミン化粧板廃棄物を瓦の原料としてリサイクルする技術を開発(8月) ・アイカ中国(株)がゼロエミッションを達成(8月) ・アイカインテリア工業(株)がゼロエミッションを達成(9月) ・原材料のグリーン購入規定を作成、運用開始(11月) ・エコプロダクツ2002に出展(12月)
2003年	・新川工場に廃熱利用排ガス燃焼装置を設置(1月) ・第1回オールアイカ環境会議を開催(2月) ・東京サイトがISO14001を認証取得およびOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・広島工場がOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカハリマ工業(株)ISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカ電子(株)がゼロエミッションを達成(3月) ・環境報告書2003を発行(7月) ・富田社長(当時)が名城大学・日経経営講座で環境経営について講演(7月) ・アイカインテリア工業(株)がISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(9月)

2003年	・大日本色材工業(株)がゼロエミッションを達成(9月) ・第2回オールアイカ環境会議を開催(10月) ・ガンツ化成(株)がISO14001を認証取得(10月) ・エコプロダクツ2003に出展(12月)
2004年	・第3回オールアイカ環境会議を開催(2月) ・全営業店所、関係会社のアイカエレテック(株)がISO14001の認証取得およびOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカ電子(株)がOHSAS18001の適合証明を受ける(3月) ・アイカインドネシア社がISO14001の認証取得(4月) ・大日本色材工業(株)がISO14001の認証取得、OHSAS18001の適合証明を受ける(6月) ・社会環境報告書2004を発行(7月) ・新川工場重油ボイラー6基をガスボイラーへ変更(9月) ・第1回アイカグループQEO会議を開催(10月) ・エコプロダクツ2004に出展(12月)
2005年	・ガンツ化成(株)がOHSAS18001の適合証明を受ける(1月) ・愛知ブランド企業に認定される(1月) ・第2回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・愛知万博「愛・地球博」に花のウォール・ミュージアムを出展(3~4月) ・テクノウッド社(インドネシア)がISO9001の認証取得(5月) ・社会環境報告書2005を発行(7月) ・昆山愛克樹脂有限公司(中国)がISO9001、14001を同時に認証取得(8月) ・瀋陽愛克博博化有限公司(中国)がISO14001の認証取得(11月) ・瀋陽愛克博博化有限公司(中国)が中国環境標示製品の認証取得(11月) ・エコプロダクツ2005に出展(12月) ・本社工場、甚目寺工場がESCO事業導入(12月)
2006年	・第3回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・テクノウッド社(インドネシア)がISO14001の認証取得(3月) ・第4回アイカグループQEO会議を開催(4月) ・社会環境報告書2006を発行(7月) ・エコプロダクツ2006に出展(12月)
2007年	・アイカハリマ工業(株)加西工場に排ガス処理装置2基を設置(1月) ・ISO9001システムのアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、ガンツ化成(株)への拡大・統合(2月) ・第5回アイカグループQEO会議を開催(2月) ・ISO14001およびOHSAS18001システムのアイカインテリア工業(株)、アイカハリマ工業(株)、ガンツ化成(株)への拡大・統合(8月) ・社会環境報告書2007を発行(8月) ・アイカ スーパーエコエコボンドSE-700を発売(10月) ・アイカコンスタボリ全柄対応開始(11月) ・愛知ブランド企業の継続認定を受ける(12月) ・エコプロダクツ2007に出展(12月)
2008年	・名古屋支店が名古屋エコ事業所認定取得(1月) ・アイカハリマ工業(株)加西工場に排ガス処理装置1基を増設(1月) ・本社屋上に太陽光発電設備を導入(3月) ・第6回アイカグループQEO会議を開催(3月) ・愛知県と「企業の森づくり協定」の締結。森林整備活動を通じて社会貢献(6月) ・福岡支店が「福岡県エコ事業所」に、岡山営業所が「岡山エコ事業所」に認定される(8月) ・社会環境報告書2008を発行(8月) ・本社工場が新ESCO事業を契約(9月) ・渡辺社長が名城大学で環境経営について講演(10月) ・札幌支店が「さっぽろエコメンバー」に認定される(11月) ・エコプロダクツ2008に出展(12月)
2009年	・甚目寺工場の重油ボイラー4基をガスボイラーへ変更(1月) ・アイカ電子(株)が岐阜県および恵那市と「環境創出協定」を締結(2月)

注) アイカ中国(株)は2002年10月1日からアイカ工業(株)広島工場に、大日本色材工業(株)は2005年4月1日からアイカ工業(株)茨城工場に、新川工場は2005年7月7日から本社工場に変更になっています。

住まい空間を演出する

**AICA**

**アイカ工業株式会社**

<http://www.aica.co.jp/>

◎お問い合わせ先◎  
環境安全部

☎ 052-443-5941



この社会環境報告書は、FSCの認証紙を使用しています。VOCとは揮発性有機化合物であり、石油系溶剤に替わり大豆油やアマニ油等の植物油のみで製造されたインキはVOCを含有しません。また、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属類は使用していません。印刷は、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、水なし方式を採用しています。

©アイカ工業株式会社 本書に収録したものの一部または全部の無断複製・転載を禁じます。